

令和元年度

(平成30年度事業対象)

桶川市教育委員会

点検評価報告書



令和元年8月

桶川市教育委員会



あいさつ

桶川市では、本年4月1日から図書館に指定管理者制度を導入しました。また、4月16日から新たに坂田図書館が開館し、これまで2館1室であった図書館が4館に増えて、事務局の組織体制が改正されたところです。

基本理念である「生きる力を育み未来へはばたく桶川の教育」の実現に向け、学校教育・社会教育の各分野で様々な取組を進めています。

点検及び評価11年目となる今年は、平成30年度事業の目標（値）と実績を比較してこの報告書を作成しました。桶川市の教育行政について、皆様にも分かりやすく読んでいただけるよう工夫しました。

さらに、その客観性を確保するため、2名の学識経験者からご意見をいただき、巻末に掲載しています。

今後も、社会情勢の変化を的確にとらえながら、教育行政を効果的かつ積極的に進めて参りたいと考えておりますので、皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

令和元年8月

桶川市教育委員会

教育委員名簿

(令和元年8月28日現在)

教育長	岩田 泉
教育長職務代理者	水村 実男
委員	青木 健志
委員	秋山 節子
委員	小野原 典子
委員	西永 和子

学識経験者

桶川市立加納中学校元校長	放課後子供教室コーディネーター	永原 敏明
桶川市社会教育委員	桶川市青少年問題協議会委員	吉村 史朗

## 目 次

### I 趣旨、点検及び評価の基本方針

### II 教育委員会の事務に関する点検評価結果（点検評価シート）

課(館)	第五次総合振興計画の施策	事業名	P
教育総務課	就学前教育の支援・充実	幼稚園就園奨励事業	4
		入学準備金貸付事業	5
	学校教育の充実	小学校整備事業	6
		中学校整備事業	7
学校支援課 教育総務課	学校教育の充実	ICT 教育推進事業	8
学校支援課	学校教育の充実	小・中学校給食業務	9
		補助員配置事業	11
		学校図書館教育補助員配置事業	13
		英語指導助手配置事業	14
		教育相談事業	15
		中学校社会体験チャレンジ事業	17
		進路意識啓発事業（ふれあい講演会）	18
		ことばの教室事業	19
		桶川市発達障害・情緒障害通級指導事業	20
		学校応援団推進事業	21
		教職員の資質・能力の向上推進事業	22
	人権教育・啓発と平和の推進	学校教育における人権教育の推進事業	24
	学校教育の充実	主体的に行動できる能力を育てる環境教育事業	25
		福祉社会の実現を目指すボランティア・福祉教育事業	26
小・中学校図書購入事業		27	
学務課 学校支援課	学校教育の充実	就学援助事業	28
学務課	学校教育の充実	学校評議員会の設置事業	29
		学校関係者評価委員会の設置事業	30
		学校運営協議会設立準備委員会の設置事業	31

		教職員の管理業務	32
		教職員の資質・能力の向上推進事業	33
生涯学習文化財課	就学前教育の支援・充実	P T Aリーダー研修会	34
		P T A家庭教育講演会	35
		「親の学習」講座	36
	青少年の健全な育成	成人式典	37
		放課後子供教室事業	38
		青少年健全育成事業	40
	生涯学習・生涯スポーツの充実	生涯学習情報の提供	42
		職員出前講座	43
		市民大学の開催	45
		文芸桶川発行	47
		パソコン講習とサポート事業	48
		生涯学習推進体制の整備	49
		学習ボランティア推進事業	51
	人権教育・啓発と平和の推進	人権教育の推進	52
	文化・芸術の振興・保存・継承	指定文化財保存管理交付金及び指定文化財保存事業費補助金交付事業	55
民俗芸能保存事業交付金交付事業		57	
後谷遺跡出土品保存処理事業		59	
指定文化財調査事業		60	
生涯学習・生涯スポーツの充実	管理運営事業	61	
	図書館業務推進事業	63	
スポーツ振興課	生涯学習・生涯スポーツの充実	スポーツ指導者育成事業	65
		スポーツ団体への支援事業	66
		スポーツ施設維持管理事業	68
公民館	就学前教育の支援・充実	幼児・家庭教育セミナー事業	70
	生涯学習・生涯スポーツの充実	講座開催事業	71
		公民館業務運営事業	72
歴史民俗資料館	生涯学習・生涯スポーツの充実	生涯学習センター管理事業	74
		資料調査・収蔵事業	75
	文化・芸術の振興・保存・継承	教育普及事業	77



## 1 趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条により、教育委員会は、毎年、教育長に委任した事務を含め、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされています。この報告書は、同法に基づき、桶川市教育委員会が行った点検及び評価の結果をまとめたものです。

## 2 点検及び評価の基本方針

### (1) 目的

桶川市教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、学識経験を有する方の知見を活用しながら今後の効果的な教育行政を推進するとともに、皆様への説明責任を果たしていくことを目的としてこの報告書を作成しました。

### (2) 点検及び評価の対象と方法

この報告書では、個別事業ごとに「桶川市第五次総合振興計画後期基本計画」の「施策の大綱」、「施策」、「基本事業」を選択し、「事業実績」、「実績及び目標（値）に対する評価」、「令和元年度以降の取組方針」、「令和元年度の目標（値）」について点検及び評価を実施しました。

今年度の様式は、最初に平成30年度の事業実績、次に、事業実績に基づき今後の取組方針を示し、最後に翌年度の目標を記載しています。これは、各事業を体系立てることで、皆様により分かりやすい報告書となるよう変更をしたものです。

## 3 事業体系

平成30年度に桶川市教育委員会が実施した事業体系は、次頁のとおりです。

※平成30年度「桶川の教育」より

## 平成30年度桶川市教育委員会事業体系

基本理念 「生きる力を育み未来へはばたく桶川の教育」

基本目標	施策	P
I 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	① 幼児教育の支援	4
	② 学校教育への支援の充実	5, 28
	③ 学校環境の整備・充実	6, 7, 8, 11, 13
	④ 学校の組織運営の改善	29～33
	⑤ 小・中学校9年間を見通した一貫性のある学校教育の推進	22
	⑥ 一人一人の確かな学力を育む教育の推進	14, 22
	⑦ 時代の変化に対応する教育の推進	8, 14, 22
	⑧ 主体的に進路を切り拓く力を育むキャリア教育の推進	17, 18
	⑨ 共生社会を支える特別支援教育の推進	19, 20
	⑩ 教職員の資質能力の向上	22, 24, 33
II 豊かな心の育成と人権意識の高揚	① 「桶川市人権教育基本方針」の具現化	52
	② 社会教育における人権教育の推進	52
	③ 学校教育における人権教育の推進	24
	④ 豊かな心を育む教育の推進	22, 63
	⑤ 心豊かな児童生徒の育成を目指す生徒指導の充実	22
	⑥ いじめ・不登校の未然防止の推進	15
III 健やかな躰(からだ)の育成	① 体力向上を目指した学校体育の充実	22
	② 食育の推進を通じた健康教育の充実	9, 22
	③ 家庭・地域と連携した安全教育・安全管理の推進	21
	④ 各種スポーツ団体への支援	66
	⑤ スポーツ・レクリエーション活動の普及	61, 68
IV 家庭・地域の教育力の向上	① 家庭教育の支援	34～36
	② 青少年健全育成の推進	40
	③ 地域・学校と連携した教育環境の整備	38, 45
	④ 幼児・家庭教育セミナーの開催	70
	⑤ 学校応援団の充実	21
V 生涯にわたる	① 学習情報の提供と学習相談体制の充実	42, 48
	② 学習機会の整備・推進	43, 47, 52, 74



学びとスポーツ の支援	③ ライフステージに応じた市民との協働による学習の推進	37, 45, 48, 51	
	④ ボランティアの育成と連携	51	
	⑤ 生涯学習推進体制の整備	49	
	⑥ スポーツ推進委員の育成	65	
	⑦ スポーツ・レクリエーション指導者の育成	65	
	⑧ スポーツ・レクリエーション施設の整備	68	
	⑨ 多様な学習や活動の機会の充実	61, 63, 71, 72	
	⑩ 図書館サービスの充実	61, 63	
	⑪ 読書会等の活動の支援・育成	63	
	⑫ 歴史民俗資料館事業の充実	75, 77	
	VI 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進	① 文化財保護事業の推進	57, 60
		② 文化財保存事業の推進	55, 57, 59, 75
③ 郷土文化伝承活動の推進		77	
④ 学博連携事業の推進		77	

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	幼稚園就園奨励費の拡充（2013）		
事業名	幼稚園就園奨励事業		
予算額	92,891,000円	決算額	88,603,900円

**1 事業概要**

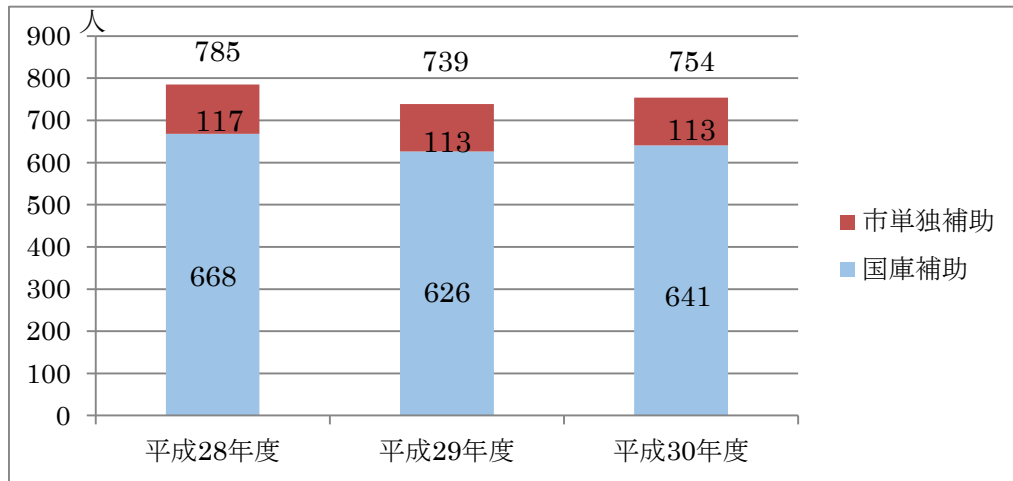
幼児教育における園児保護者の経済的負担の軽減を図るため、国費による就園奨励費補助事業に加え、市費による補助事業も併せて行った。

**2 事業実績**

**(1) 幼稚園就園奨励費補助金**

国庫補助対象分として641人、87,693,800円、市単独補助分として113人、741,300円を補助した。

＜過去3年間の補助対象者数の推移＞



**(2) 私立幼稚園事務費助成金**

幼稚園就園奨励費補助金の事務に対する補助として、市内4園に対し、総額168,800円を交付した。

**3 上記2に対する評価**

幼稚園教育を希望する保護者に対して必要な措置を行うことができた。

**4 今後の取組方針**

幼児教育保育無償化制度が開始されることに伴い、私立幼稚園利用者には限なく適切に制度を利用してもらえるよう、他市町村や幼稚園、保護者との連絡をこまめに取り合いながら事業を進めていく。

**5 令和元年度の目標（値）**

幼稚園就園奨励費制度は令和元年9月末日で廃止となり、10月から子ども子育て支援法の改正による幼児教育保育無償化制度が開始される。引続き、就園奨励費制度の対象者が無償化制度の対象となるため、スムーズに移行できるよう制度の理解や周知を図る。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	入学準備金貸付事業		
予算額	4,800,000円	決算額	3,600,000円

1 事業概要

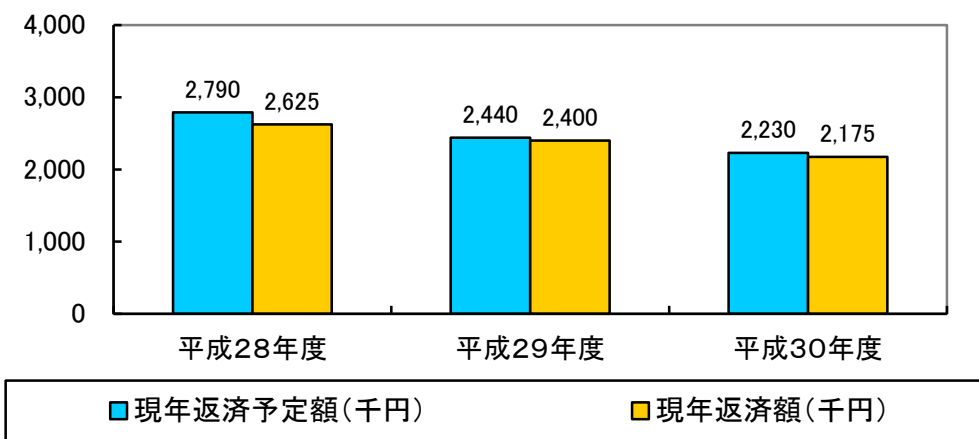
経済的に不安を抱える生徒の保護者に対して高等学校、大学、専門学校等への入学にかかる費用の貸付を行った。

2 事業実績

(1) 貸付状況

年度	貸付金額	件数	内 訳
28	2,200,000円	8	高校 5、専門学校 0、大学 3
29	2,600,000円	10	高校 7、専門学校 0、大学 3
30	3,600,000円	13	高校 8、専門学校 0、大学 5

(2) 返済予定額に対する返済状況



3 上記2に対する評価

- (1) 申請件数が毎年増加していることから、周知の効果によって制度についての認識を得られてきたと考える。また、高校入学時に貸付を受けた方が、大学への進学に際して再度利用するケースもあったことから、適切な支援ができたと考える。
- (2) 平成30年度当初は償還困難となっていた案件について、本人及び保証人に催促通知した結果、滞納分を減らすことができた。

4 今後の取組方針

- (1) 適切な支援を行うため、市民に対し、申請方法等について引続き周知に努める。
- (2) 償還困難となっている案件について、調査を行い引続き滞納整理に努める。

5 令和元年度の目標(値)

- ・これまで9月開始であった申請期間を7月からとし、進学に係る学費負担の支援を求める保護者に対して、早期から相談を受けて貸付制度の案内をする。
- ・滞納分縮減と現年度返済が滞らないよう対応する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校施設の整備（2023）		
事業名	小学校整備事業		
予算額	1,338,396,000円	決算額 (繰越明許費)	466,568,615円 (786,550,000円)

**1 事業概要**

学校の教育力の維持向上のため、安全で快適な学習環境を整備した。

**2 事業実績**

(1) 老朽化対策（トイレ改修）工事

●実施済 ○未実施

学校名	H28	H29	H30	R1	R2
加納小	計 画 策 定	●			
桶川小			●		
桶川西小			●	○	
川田谷小			●	○	
桶川東小				○	
朝日小				○	
日出谷小					○

桶川小・桶川西小（南）・川田谷小（南）のトイレ等の改修工事を実施すると共にR1年度より工事实施の桶川東小、朝日小の工事設計を委託した。

- ・工事費：425,952,000円
- ・工事監理委託：9,968,400円
- ・工事設計委託：11,642,400円

(2) 安全対策工事

市内小学校のブロック塀等の安全対策工事を実施した。（6校 ※繰越分を含む）

- ・工事費：5,500,856円
- ・工事設計委託：2,322,432円

(3) 施設維持工事等

学校の施設維持のため緊急性のあるものなど随時工事等を実施した。（26件）

- ・工事費：11,182,527円

(4) 工事繰越事業

(5) 委託繰越事業

繰越事業	繰越額
老朽化対策工事	726,000,000円
安全対策工事	34,000,000円
合計	760,000,000円

繰越事業	繰越額
老朽化対策工事監理委託	24,000,000円
安全対策工事監理委託	2,550,000円
合計	26,550,000円

**3 上記2に対する評価**

- ・緊急性や小学校の要望等を踏まえ、適切に工事を進めることができた。
- ・「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」の計画どおり老朽化対策工事を行うことができた。

**4 今後の取組方針**

学校施設の老朽化対策として、「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づき、まずはトイレ等改修を行う。その後は長寿命化を図るための大規模改修を行う。

**5 令和元年度の目標（値）**

「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づき、川田谷小学校・桶川東小学校・桶川西小学校・朝日小学校のトイレ等改修工事を行うとともに、令和2年度に実施する日出谷小学校の実設計を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校施設の整備（2023）		
事業名	中学校整備事業		
予算額	311,871,000円	決算額 (繰越明許費)	218,738,372円 (32,950,000円)

**1 事業概要**

学校の教育力の維持向上のため、安全で快適な学習環境を整備した。

**2 事業実績**

(1) 老朽化対策（トイレ改修）工事

●実施済 ○未実施

学校名	H28	H29	H30	R1	R2
桶川東中	計 画 策 定	●			
桶川西中			●		
桶川中					○
加納中					○

桶川西中のトイレ等の改修工事を実施した。

- ・工事費：190,590,670円
- ・工事監理委託：5,832,000円

(2) 安全対策工事

市内中学校のブロック塀等の安全対策工事を実施した。（3校 ※繰越分を含む）

- ・工事費：10,900,982円
- ・工事設計委託：2,515,968円

(3) 施設維持工事等

学校の施設維持のため緊急性のあるものなど随時工事等を実施した。（10件）

- ・工事費：8,693,552円
- ・漏水調査委託：205,200円

(4) 工事繰越事業

(5) 委託繰越事業

繰越事業	繰越額
安全対策工事	30,300,000円

繰越事業	繰越額
安全対策工事監理委託	2,650,000円

**3 上記2に対する評価**

- ・緊急性や中学校の要望等を踏まえ、適切に工事を進めることができた。
- ・「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」の計画どおり老朽化対策工事を行うことができた。

**4 今後の取組方針**

学校施設の老朽化対策として、「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づき、まずはトイレ等改修を行う。その後は長寿命化を図るための大規模改修を行う。

**5 令和元年度の目標（値）**

「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づき、令和2年度に実施する桶川中学校・加納中学校の実設計を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	ICT教育推進事業		
予算額	60,762,000円	決算額	60,642,702円
<b>1 事業概要</b>			
学校におけるICTの活用を推進するため、指導方法の工夫や校務の電子化を図るとともに、ICT支援員の活用や、ICT機器の活用などを行った。			
<b>2 事業実績</b>			
(1) ICT支援員の活用 支援員がサポートをしながら、プログラミングソフトで絵を書き、絵が動くようにプログラミングすることや、調べたことをまとめたプレゼンテーションソフトを使って資料をプロジェクターで投影して発表するなどの授業を行った。			
(2) ICT機器の活用 小学校では、ipadを使い、体育の授業において、器械運動やバスケットボールを動画で撮影し、スローモーションで再生することにより、自分の技を振り返ったり、理科の観察・実験の様子を撮影し、学級全体で共有したりした。中学校では、英語の授業において、生徒が実際に英会話している様子を撮影したり、理科において周辺の植物を班ごとに撮影し、学級全体で共有したり、総合的な学習の時間において、発表の際に画像や資料の提示を行ったりして活用した。			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
(1) ICT支援員を活用することにより、簡単なプログラミングを行うことができた。プログラミング教育に苦手意識のある教員も、支援員の力を借りることで取り組むことができた。さらにICT支援員の活用によるプログラミング教育の推進を図っていく必要がある。			
(2) iPad や大型提示装置は活用されているが、インターネット環境の整備が進んでいないため、ICT機器の使用場面が限定されている。普通教室等での利用を可能とする条件整備を進めることが、課題である。			
<b>4 今後の取組方針</b>			
(1) 次期学習指導要領に向けて、ICT機器の活用について研究し、より効果的な教育用コンテンツの研究を行い、整備を進める。			
(2) 教員の研修会にて、ICTを活用した授業の実践事例、ICT支援員を活用した授業等を各校が報告することで、情報を共有し、推進教員の資質向上を図る。			
(3) 電子黒板等の既存のICT機器を含めた積極的な活用を推進するとともに、各学校へ大型モニター等のICT環境の計画的な整備を目指す。			
<b>5 令和元年度の目標（値）</b>			
(1) プログラミングソフトを用いた授業の実践、タブレットや大型提示装置の使用実績が多い学校の取組の紹介などの研修会を実施することで、タブレットPCなどICT機器の活用をさらに促進し、より高い教育効果を上げていく。			
(2) プログラミング教育の本格実施に向けて、次年度の年間指導計画を各小学校がたてるなど準備をし、スムーズに実施できるようにしていく。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	小・中学校給食業務		
予算額	218,852,000円	決算額	216,068,977円

**1 事業概要**

- (1) 桶川市学校給食運営事業  
学校給食の実施計画、給食用物資選定及び献立作成等については、桶川市学校給食運営委員会で検討した。
- (2) 学校給食調理業務  
各小・中学校の学校給食は自校方式で行った。調理業務については、(公財)桶川市施設管理公社に委託した。
- (3) 学校給食の放射線量測定  
学校給食用食材の放射線量の測定を、市内小中学校全校において実施した。
- (4) 学校給食用残牛乳の処分委託  
各小・中学校の残牛乳を適切に処分するための業務を委託した。
- (5) 食育の推進  
栄養教諭等を中心とした食育指導の充実を図る取組を行った。
- (6) 給食室の環境整備  
給食室に必要な消耗品の購入及び給食室備品の修繕を行った。

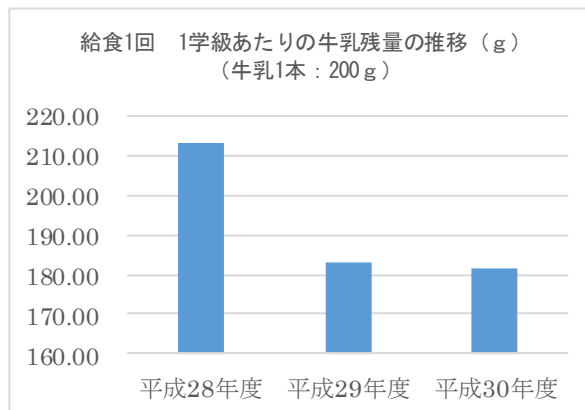
**2 事業実績**

- (1) 桶川市学校給食運営事業
  - ア 給食費  
小学校：月 4,000 円（1食 234 円） 実施回数 年間 191 回  
中学校：月 4,550 円（1食 272 円） 実施回数 年間 186 回
  - イ 献立作成  
桶川市学校給食運営委員会専門部会において、栄養教諭・学校栄養職員で構成される献立検討会を毎月 3 回実施し、地産地消の観点から地元産の食材を利用した献立作成に努めた。
  - ウ 桶川市学校給食運営委員会  
専門部会（物資選定部会・献立作成部会・食育推進部会）についての報告を行い、日々の学校給食運営に関することの協議ができた。
- (2) 学校給食調理業務
  - ア 学校給食調理業務委託（200,031,473 円）  
給食物資の調達・発注、物資納入業者との契約・指導、献立に基づく調理及び食器等の洗浄、給食室内の衛生管理等について、(公財)桶川市施設管理公社に委託した。学校給食調理業務委託費の構成は、主に人件費(174,340,089 円)が 87.2%を占めており、次いで租税公課(14,323,710 円)が 7.2%、消耗品費(5,654,231 円)が 2.8%、その他経費(5,713,443 円)が 2.8%となっている。
  - イ 調理作業備品等の更新(5,173,651 円)  
冷蔵庫(3 校)、炊飯器(2 校)、フライヤー(1 校)、移動シンク(1 校)、野菜切機(1 校)、球根皮剥機(1 校)、リフト用運搬車(1 校)、その他給食関連備品
  - ウ 細菌検査・給食室に係る委託(3,707,208 円)  
検査委託、設備保守、殺虫駆除消毒殺鼠防除、設備洗浄、グリストラップ清掃
- (3) 学校給食の放射線量測定(966,788 円)
  - ア 給食用食材の測定  
消費者庁の放射線測定機器第 4 次配備計画による測定機器の貸与があり、4 月から翌年 3 月まで 3 品目を週 3 回 1 校ずつローテーションで放射線量の測定を実施した。
- (4) 学校給食用残牛乳の処分 学校給食用牛乳処分委託(1,939,113 円)

- (5) 食育の推進  
 ア 桶川小・桶川東小・朝日小の3校に栄養教諭を配置し、栄養教諭及び学校栄養職員を中心として食育の推進事業を行った。  
 イ 桶川西中において、食育指導力授業研究協議会を開催し、栄養教諭等が学級担任と連携した食育に関する授業研究会を実施した。
- (6) 給食用消耗品の購入及び給食用備品の修繕料他 (4, 250, 104 円)

### 3 上記2に対する評価

- (1) 桶川市学校給食運営委員会の事業について  
 ア 献立作成  
 地産地消の促進という観点から、できる限りの食材を地元から確保する努力をし、地元産食材の割合は小中平均で29.2% (平成30年11月現在) であった。  
 イ 学校給食運営委員会  
 年3回の学校給食運営委員会を開催することができた。食物アレルギーへの対応について、有識者よりご意見をいただき、共通理解を図ることができた。
- (2) 学校給食調理業務について  
 ア 学校給食調理業務委託  
 (ア) (公財) 桶川市施設管理公社との調整を経て、安心・安全な食材を用いて、安定した給食供給を行うことができた。  
 (イ) 支払業務など事務処理についても、学校事務員及び(公財) 桶川市施設管理公社との連絡を充実させることにより、円滑な運営ができた。  
 イ 調理作業機器等の更新  
 老朽化した給食設備備品の更新を計画的に行うことができた。
- (3) 学校給食の放射線量の測定  
 計画どおり適切に測定し、測定値をホームページで公表することによって、保護者に対して、安心・安全な学校給食の実施を伝えることができた。
- (4) 学校給食用残牛乳の処分  
 学校給食用牛乳の処分量は前年度と比較して、55kg減少した。
- (5) 食育の推進  
 食育の指導については、学級担任と栄養教諭・学校栄養職員とのチーム・ティーチングによる授業を学校の年間指導計画に位置づけ、小学校平均約33時間、中学校平均約5.25時間の授業を行うことができた。



### 4 今後の取組方針

- 学校給食運営員会で、学校給食運営上の諸課題について検討し、改善を図る。
- 献立検討部会で安心・安全な食材の確保及び地産地消の促進を図る。
- 給食費未納者対応については、各校の状況を適宜把握し、未納解消に努める。
- 栄養教諭等を活用して、食育の授業の充実と質の向上を目指す。
- 学校における異物混入、アレルギー対応等の各マニュアルについて、計画的に点検・見直しを行っていく。
- 給食費について、安心・安全でおいしい給食の維持を図るため、改定の必要性があるかの研究・検討を行う。
- 学校給食費の公会計について、自校給食方式を活かす公会計化を実施するため準備を行う。
- 給食費の公会計化について、令和2年度中に予算書に給食費を記載することで、会計の透明性を確保し、徴収管理については他の学校会計の集金を含め今後検討を行う。

### 5 令和元年度の目標 (値)

- 地元産食材の割合を小・中学校平均で30%以上にするための方策を検討する。
- 給食費会計の透明性を高めるために、公会計制度の導入を目指す。
- 牛乳の飲み残しについて、残量を減らすための方策を検討する。



施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事 業 名	補助員配置事業		
予 算 額	56,302,000 円	決 算 額	55,552,470 円

### 1 事業概要

児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導・支援の充実を図るため、各種補助員を小・中学校に配置した。

### 2 事業実績

	学校名	教育指導	特別支援	日本語指導員	小1プロブレム	理科支援員
1	桶川小学校	2	4	1	1	1 (加納小学校と兼務)
2	加納小学校	2	2		1	1 (桶川小学校と兼務)
3	川田谷小学校	2	2		1	1 (日出谷小学校と兼務)
4	桶川西小学校	2	4	1 (桶川中学校と兼務)	1	1 (朝日小学校と兼務)
5	桶川東小学校	2	3		1	1
6	日出谷小学校	2	3 前年度比+1	1	1	1 (川田谷小学校と兼務)
7	朝日小学校	2	2		1	1 (桶川西小学校と兼務)
8	桶川中学校	2	1	1 (桶川西小学校と兼務)		
9	桶川東中学校	2	1	1 (桶川西中学校と兼務)		
10	桶川西中学校	2	1	1 (桶川東中学校と兼務)		
11	加納中学校	2	1			
	合計	22	24 前年度比+1	4	7	4

#### (1) 教育指導補助員配置事業 (22,242,220 円)

通常の学級に在籍する児童生徒について学習指導補助等を行った。小学校では、おもに国語、算数、体育等の教科を中心に学力向上に向けた学習指導補助等を行った。中学校では英語、理科、美術、技術の学習指導補助、また学習支援室での学習指導補助を行った。

配置状況：年間185日（原則として週5日、1日5.5時間）

#### (2) 特別支援指導補助員配置事業 (24,403,115 円)

特別に配慮を要する児童生徒について、技能教科等での補助的支援や個別の声かけ、日常生活への適応について支援を行った。特別支援学級や通級指導教室の設置の状況により、補助員の配置を調整した。

配置状況：年間185日（原則として週5日、1日5.5時間）

#### (3) 日本語指導員配置事業 (904,960 円)

日本語の指導を要する児童生徒が在籍する小学校3校、中学校3校に、4人（うち2校兼務2名）の補助員を配置した。日本語指導員は、通常の学級に在籍する外国籍の児童生徒に対する支援として、日本語指導及び教育指導の補助にあたった。

配置状況：（原則として週2日、1日4時間）小学校3校、中学校3校

#### (4) 小学校理科支援員配置事業 (864,000 円)

小学校理科の授業における学習指導補助（実験・観察の準備や片付け、学習の支援等）を行うため、小学校理科支援員を各小学校に1人配置した。

<p>配置状況 1、2 学期  桶川小学校：60日  加納小学校・川田谷小学校・桶川西小学校・桶川東小学校・  日出谷小学校・朝日小学校：30日  (5) 小1プロブレム対策推進事業 (7,138,175円)  小学校低学年において学習指導補助や生活支援及び学級支援を行った。  配置状況：年間185日（原則として週5日、1日5.5時間）  (6) 補助員及び支援員の資質向上研修会  平成30年11月19日「個別の支援を考える～支援員・補助員の視点から～」  指導者 桶川市立桶川東小学校 金風 祐士 教諭</p>
<p><b>3 上記2に対する評価</b>  (1) 教育指導補助員配置事業  ア 担任や教科担当と連携しながら一人一人の理解の程度に応じたきめ細かい指導を行うことができた。  イ 学習意欲の向上や落ち着いた学習態度の醸成につながった。  ウ 基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることにつなげることができた。  エ 個別の支援を必要とする児童生徒の多様化と増加に対応するため、補助員の増員と質の確保が課題である。  (2) 特別支援指導補助員配置事業  ア 特別な教育的支援を要する児童生徒にきめ細かで適切な支援を行うことができた。  イ より多くの支援を必要とする児童生徒がいるため、状況に応じて丁寧な支援を行うためにも、補助員の増員と人員の確保が課題である。  (3) 日本語指導員配置事業  ア 学校生活への適応を支援することで、安心して学校生活を送ることにつながることができた。  イ 日本語指導員が授業中の学習支援や個別の学習指導を行うことで、支援・指導を受けた外国人児童生徒は、ひらがなやかたかなを習得することができ、日本語による学習に慣れる一助となった。  (4) 小学校理科支援員配置事業  ア 理科支援員が、授業における観察・実験の支援・後片付けを行うことで、理科教育の充実を図ることができた。また、指導主事による巡回指導時において児童への具体的な接し方や器具の準備や片付け方法やそのタイミング等について指導し、授業が充実するような支援をすることができるようになった。  (5) 小1プロブレム対策推進事業  ア 学級担任と連携し、一人一人の理解の程度や状況に応じた細やかな対応を行い、児童が学校生活に適応するための支援を効果的に行うことができた。  イ 基本的な学力（読み 書き 計算）の定着に効果が表れ、学習意欲の向上や落ち着いた学習態度の醸成にも結びついた。  ウ 教育的ニーズに応じた個別の支援を必要とする児童もおり、丁寧に対応するためにより多くの支援員を配置すること及び人員の確保が課題である。  (6) 補助員及び支援員の研修会を実施し、具体的な指導方法等について学び、補助員及び支援員の資質向上を図ることができた。</p>
<p><b>4 今後の取組方針</b>  ・教育指導補助員・特別支援指導補助員・小1プロブレム推進事業学級支援員の統合により学校の児童生徒の実態に応じた補助員の配置を行う。  ・日本語指導員配置事業  日本語指導が必要な児童生徒の状況を把握し、必要なタイミングで必要な指導が行えるよう、指導員を配置していく。  ・小学校理科支援員配置事業  理科教育の充実を図るため、本事業の効果の検証を行い、継続・拡充を図る。</p>
<p><b>5 令和元年度の目標(値)</b>  ・補助員及び指導員の資質向上と教育に関する情報提供のための研修会を継続する。  ・支援の充実を図るために、合理的な統合を行う。  ・広報での募集方法や採用面接の改善を行う。</p>

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	学校図書館教育補助員配置事業		
予算額	5,940,000円	決算額	5,926,500円
<b>1 事業概要</b>	小・中学校に学校図書館教育補助員を配置し、学校図書館教育、読書指導の充実を図った。		
<b>2 事業実績</b>	<p>市内全小・中学校に各1人、学校図書館教育補助員を配置した。（5,926,500円）  配置状況：年間120日（原則として週3日、1日5時間勤務）</p> <p>(1) 児童生徒への読書指導  ア 国語や総合的な学習の時間等における学習の補助を行った。  イ 各学校の図書委員会などで、児童生徒が本の紹介を行う際の支援を行ったり、図書ボランティアと協力し、読み聞かせの活動を行ったりした。</p> <p>(2) 蔵書の修復や整理、貸出し等の補助</p> <p>(3) 学校図書館の環境整備  ア 学校図書館教育主任と連携して、児童生徒が興味関心を持つように、図書の紹介文をPOPで行ったり、貸し出し回数が多い図書を見やすい場所に置いたりするなど、学校図書館の環境整備に取り組んだ。  イ 市立図書館から図書の団体貸出を利用し、校内の教育活動に活用した。  ウ 学校図書館教育補助員対象の研修会を実施した。【於：駅西口図書館】  実施日：平成30年6月20日(水)内容：市立各図書館と学校図書館と連携  平成31年2月15日(金)内容：各校及び市立図書館の情報交換</p>		
<b>3 上記2に対する評価</b>	<p>(1) 児童生徒への読書指導  ア 図書を活用した学習活動が活発となり、各教科の調べ学習や探究的学習が円滑に行われた。  イ 朝の読書活動の取組などにより、児童生徒に読書習慣の定着が図られた。</p> <p>(2) 蔵書の修復や整理、貸出し等の補助  ア 蔵書の修復や整理等を計画的に行い、学校図書館の環境づくりの中心となった。  イ 学校図書館教育主任と連携し、図書の貸し出しを円滑に行うことができた。</p> <p>(3) 学校図書館の環境の整備  ア 蔵書の数を充実させながら、様々な蔵書に興味を持つような学校図書室の工夫により、児童生徒が行きたくなる学校図書室を実現することができた。  イ 市立図書館と連携し、本の団体貸し出しのシステムの構築や西口図書館の職員を講師として研修会を実施したことで、学校図書室と市立図書館の連携を深めることができた。</p>		
<b>4 今後の取組方針</b>	学校図書館の機能の一層の充実のため、研修会を実施して、学校図書館教育補助員の資質向上を図る。		
<b>5 令和元年度の目標（値）</b>	各学校の学校図書館教育について情報交換を行い、学校図書館の機能の向上を図り、貸し出し数を全校合計90,000冊（一人平均約10冊）にする。また、セカンドブック事業や中央図書館との連携を図り、読書指導の充実を図る。		

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（2022）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	英語指導助手配置事業		
予算額	22,128,000円	決算額	22,128,000円
<b>1 事業概要</b>			
小学校に4人、中学校に2人の英語指導助手（ALT）を配置し、国際理解教育や外国語活動・英語教育の推進を図った。			
<b>2 事業実績</b>			
(1) 配置状況			
A指導助手：桶川西小学校 118日 川田谷小学校 81日			
B指導助手：桶川小学校 120日 日出谷小学校 81日			
C指導助手：加納小学校 80日 朝日小学校 122日			
D指導助手：桶川東小学校 157日 桶川小学校 40日			
E指導助手：桶川中学校 114日 加納中学校 76日			
F指導助手：桶川西中学校 101日 桶川東中学校 88日			
(2) 活動状況			
ア 外国語活動や外国語、総合的な学習の時間等での指導補助の他、給食、清掃等の時間を通して児童生徒と交流し、外国語や外国の文化に触れる機会を設定した。			
イ 各小学校において、夏季休業中に外国語活動の指導についての研修を行った。			
ウ 中学校では、英語暗唱・弁論大会の指導等を行った。			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の発達段階に応じた活動を取り入れることにより、英語に関する興味関心やコミュニケーションの意欲を高めることができた。また、授業時間だけでなく休み時間や給食、清掃時間など様々な場面で児童生徒とALTが交流することにより、外国語や外国の文化に触れる機会を増やすことができた。</li> <li>各小学校で行った夏季休業中の外国語活動研修会には、136名が参加し、授業に生かせるヒントを提供できた。事後評価は、4段階評価で3.80であった。</li> <li>桶川・伊奈地区中学校英語暗唱・弁論大会においては、英語指導助手の指導を受けることで、より質の高い暗唱及び弁論を行うことができた。</li> <li>埼玉県学力・学習状況調査の英語「聞くこと」では、県正答率と比較し、本市正答率は中2で+4.2%、中3で+3.9%高く、ALTの配置がこの一因であると推測できる。</li> </ul>			
<b>4 今後の取組方針</b>			
(1) 外国語活動・外国語の授業を一層効果的に推進するため、授業等の状況を把握し、派遣委託業者と連携して、英語教育に係る指導助手の資質向上に努める。			
(2) 派遣委託業者選定方法・契約期間や配置について、質の高い外国語教育推進事業となるように外国語活動研究委員会で検討する。その際、英語科指導助手の活用の改善を図るとともに、担任や教科担当教員の指導力の向上のために研修方法も模索する。			
<b>5 令和元年度の目標(値)</b>			
ALTミーティングを年3回から年6回に増やし、研修及びカウンセリングを行い、安定した指導につなげる。令和2年度の小学校の学習指導要領の全面実施に向けて、標準時数確保のための時間割編成等について英語活動研究委員会で資料提供、協議を行い、外国語指導助手の配置やチームティーチングの頻度を検証し、質の高い英語教育の推進を図る。外国語専科教員を1名配置しALTとのチームティーチングの質的改善を図り、検証する。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	教育相談事業		
予算額	18,336,000円	決算額	18,274,476円

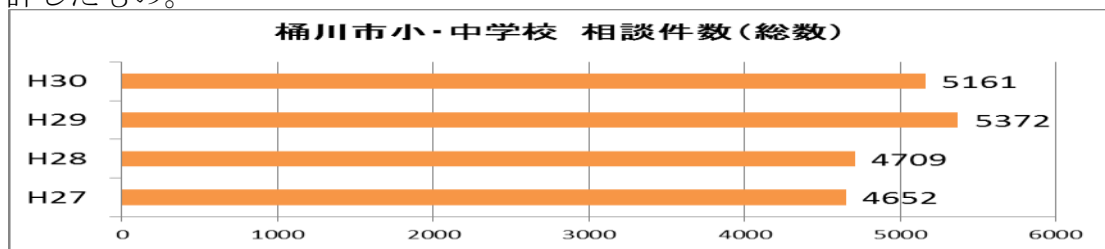
1 事業概要

- (1) さわやか相談員を各中学校区に配置した。
- (2) 桶川市教育センターにカウンセラーを2名、相談員を3名配置し、教育相談を行った。また、指導員4名を配置し、適応指導教室「けやき教室」を運営した。
- (3) スクールカウンセラーを2校に隔週で1日、2校には毎週1日、中学校に配置した。
- (4) 平成28年8月に設置した「いじめ専用ダイヤル」での相談受付を行った。
- (5) スクールソーシャルワーカーを要請に応じて学校へ派遣した。

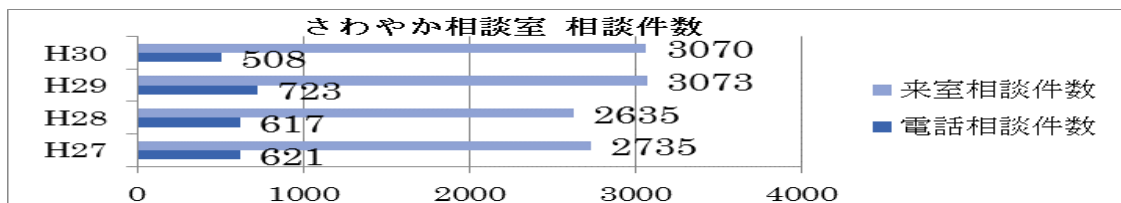
2 事業実績

●桶川市小・中学校 相談件数（総数）

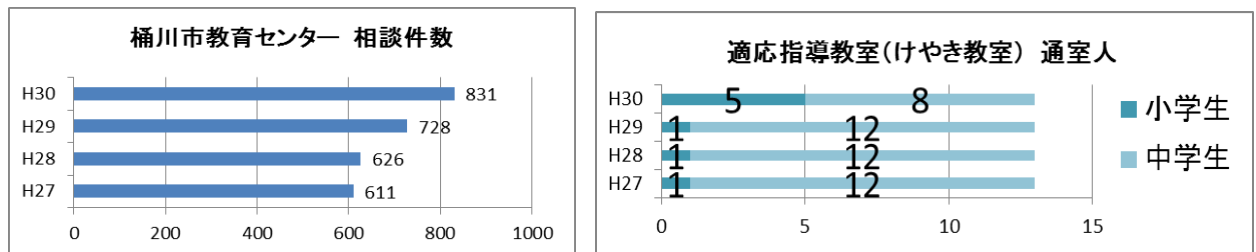
さわやか相談室、桶川市教育センター、スクールカウンセラーへの相談件数をすべて合計したもの。



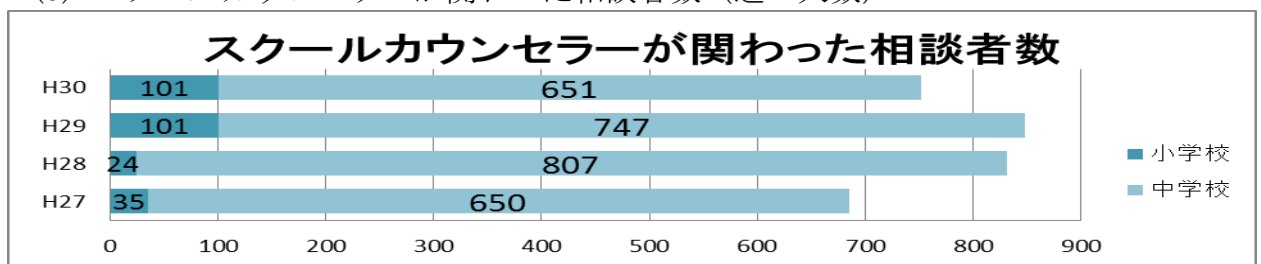
(1) さわやか相談員（9,310,196円）



(2) 桶川市教育センター（適応指導教室「けやき教室」を含む）（8,964,280円）



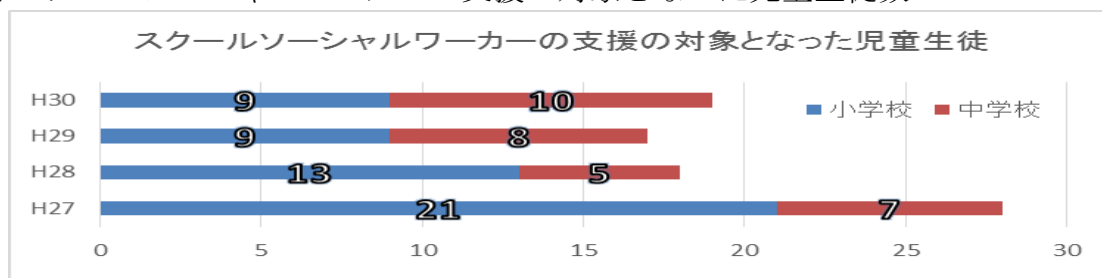
(3) スクールカウンセラーが関わった相談者数（述べ人数）



〔関連事項. 市内小・中学校でのいじめの認知件数及び不登校児童生徒数〕

いじめの認知件数 小学校 129件 中学校 21件  
不登校児童生徒数 小学校 27人 中学校 69人

- (4) いじめ専用ダイヤルについては周知を図っているが、いじめ相談の案件はなかった  
(5) スクールソーシャルワーカーの支援の対象となった児童生徒数



### 3 上記2に対する評価

(1) さわやか相談員

ア 児童生徒及び保護者の相談を受け、スクールカウンセラー、学級担任や養護教諭等と連携を迅速に図ることができた。

(2) 桶川市教育センター（適応指導教室を含む）

ア 児童生徒の行動や発達等の課題に関する保護者からの相談に対して、カウンセラー及び相談員が面談や電話相談による、きめ細やかに対応することができた。カウンセラーと相談員の部会を設け、共通理解を図った。

イ 不登校児童生徒に対して、指導員が学校への復帰のための支援を適切に行えた。

(3) スクールカウンセラー

ア 特別な教育的配慮を要する児童生徒に対して専門的な検査等を実施し、指導・支援の在り方を保護者及び教員に助言し、課題の解決に向けて取り組むことができた。

(4) いじめ専用ダイヤル

児童生徒及び保護者への周知を今後も行っていく。あわせて、埼玉県や文科省の相談事業の周知も図っていく。

(5) スクールソーシャルワーカー

課題をかかえる児童生徒及び保護者の状況をふまえつつ、学校と関係機関をつなぐ等しながら支援を行うことができた。

### 4 今後の取組方針

(1) 多様な背景による相談件数の増加、適応指導教室に通室する児童生徒数の増加に対応するため、現在の教育センターでは手狭となる。他施設の活用など拡充を目指す。

(2) いじめ撲滅、不登校児童生徒の減少を目指して、小・中学校と各相談機関の効果的な連携を推進する。

(3) 相談件数の増加、多様な相談・支援ケースへの対応のため、教育センターのスタッフの勤務日数を増やし、ニーズが生じた際に対応できる体制づくりを進める。

### 5 令和元年度の目標（値）

各担当が児童生徒・保護者の教育相談に迅速で丁寧な対応をする。それぞれの相談機関が、対象者と関わる機関との連携を図ることができるよう、教育委員会として周知に努める。そして、一人一人の状況に応じた適切かつスムーズな相談対応が行えるよう支援する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる				
施 策	学校教育の充実（202）				
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）				
事業名	中学生社会体験チャレンジ事業				
予算額	234,000円	決算額	234,000円		
<b>1 事業概要</b>					
生徒が将来をよりよく生きるために、望ましい職業観や公平な社会性への理解を深めるなど進路指導・キャリア教育の充実を図るため、全中学校で生徒の職場体験を行った。					
<b>2 事業実績</b>					
(1) 中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会の開催					
ア 実施日 第1回：平成30年5月17日（木） 第2回：平成31年2月15日（金）					
イ 委員 桶川市商工会、桶川青年会議所、桶川ロータリークラブの代表者 桶川市PTA連合会長、代表校長、各校事業担当者					
ウ 内容 職場体験活動の目的の確認、依頼する事業所の確認、情報交換					
(2) 各校における実績					
ア 体験期間：3日間、参加生徒数：580人					
イ 協力事業所数：120事業所					
	学 校 名	実施学年	人数(人)	事業所数	交付金(円)
	桶川中学校	第1学年	161名	47	64,000
	桶川東中学校	第2学年	131名	64	52,000
	桶川西中学校	第2学年	156名	50	65,000
	加納中学校	第2学年	132名	39	53,000
<b>3 上記2に対する評価</b>					
(1) 中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会の開催					
ア 市内中学校4校で情報交換を行うことで、よりよい事業の運営ができた。					
イ 桶川市商工会、桶川市青年会議所、桶川ロータリークラブ、PTA連合会長の参加により事業所への依頼を円滑に行うことができた。					
(2) 各学校の取組					
ア 事業所に赴き、実際に働くことや働く方々と接することにより、普段学べないことを掴むことができた。また、その後の学習もより深いものになった。					
イ 3日間の職場体験を軸に、事前学習、事後学習を含め、充実したキャリア教育を行うことができた。					
<b>4 今後の取組方針</b>					
(1) 中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会で交換された意見や情報を、さらなる事業の充実に役立てていく。					
(2) 年2回の事業推進委員会において、桶川市商工会、桶川市青年会議所等との連携を深め、市内及び近隣市の事業所に対して本事業への理解の促進をお願いし、新規受入れ事業所を確保する。					
<b>5 令和元年度の目標(値)</b>					
学校支援課から事業所への依頼を増やし、受け入れ事業所数を増やすことにより、生徒の選択肢を増やし、より有意義な活動になるように支援する。本年度の第2回の推進委員会で、次年度の事業所依頼を行う。生徒向け接遇研修に外部指導者等を招致して行う。					

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（2022）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事 業 名	進路意識啓発事業（ふれあい講演会）		
予 算 額	40,000 円	決 算 額	40,000 円

**1 事業概要**

進路指導の一環として、生徒や保護者の進路意識を啓発するために「ふれあい講演会」を実施し、地域で活躍する職業人の講演を聞く機会を提供した。

**2 事業実績**

各中学校の実施内容

学 校 名	講 師	参加数	実施日	内 容（講演・演題）
桶川中学校	東宝株式会社 土曜学習応援団 プログラム 玉木 淳一 氏	570 人	10 月 4 日	「映画ができるまで」
桶川東中学校	パラリンピックアルペンスキー選手 小池 岳太 氏	500 人	10 月 23 日	「自分の可能性 を信じて」
桶川西中学校	パナソニックリフォーム石川 和幸 氏	550 人	9 月 20 日	「社会に出るために」
加納中学校	車いすバスケット選手 堀江 航 氏	400 人	11 月 1 日	「自分らしく生きる」 体験談と実技体験

（桶川東中学校及び加納中学校においては、連携している日本体育大学より講師を招致した。）

**3 上記2に対する評価**

（1）様々な職業人から直接話を聞くことで、「生きること」「働くこと」についてあらためて考える機会を持つことができた。さらに、自分自身の進路を見つめるきっかけとすることができた。講師それぞれの仕事の内容のみならず、夢を実現するために努力することの大切さ、仕事に対する信念、仕事に向き合う真摯さなどを生徒達が感じ取っていたことが、感想等から伺えた。生徒の進路意識の啓発・高揚を図ることができた。

（2）全ての中学校が毎年、生徒・保護者を対象に本事業を実施し、様々な分野で活躍する方々に接することで、自己の進路意識の向上につながっている。

**4 今後の取組方針**

本市独自の取組として継続していく。各学校の講師の選定が円滑に行われ、より効果的な事業実施ができるように、県教育委員会講師派遣制度やJICA等の団体とも連携し、支援していく。

**5 令和元年度の目標(値)**

生徒・保護者の進路意識を啓発できるよう、講師の選定のために日本体育大学との連携事業による講師派遣を依頼することなど、教育委員会を通した講師派遣に積極的に取り組み、中学校の進路指導・キャリア教育の推進を図る。



施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	ことばの教室事業		
予算額	1,590,000円	決算額	1,590,000円

**1 事業概要**

ことばの発達に不安のある児童生徒や保護者に対して、専門的な指導を行った。

**2 事業実績**

開設日数 75日（75日予定）  
 開設時間 午後1時～5時（4時間）  
 通級児童生徒数 26人  
 （小学生26人、中学生0人）  
 うち終了 4人

**(1) 児童生徒への言語指導**

ア 「ことばやきこえ」の発達を支援するため、桶川西小学校内に桶川市ことばの教室を設置し、言語聴覚士による専門的な指導を行った。  
 イ ことばを増やすための指導や正しい発音へと導く指導等、児童生徒一人一人の状態に応じた適切な個別指導を行った。

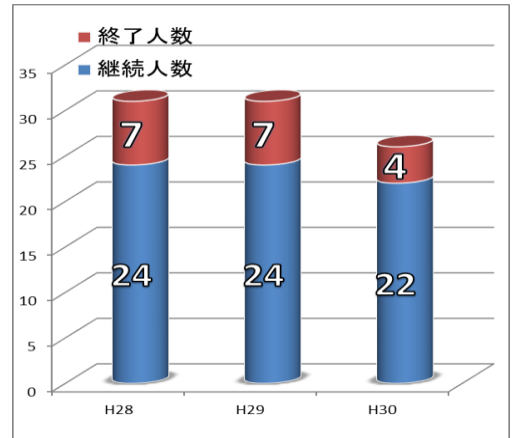
ウ 保護者の希望により、児童生徒の言語指導への理解を共有したり、保護者からの相談に対応したりした。

**(2) 保護者の相談対応 12件（平成29年度9件）**

通級前に保護者の不安や児童生徒の現状について相談を受けた。  
 （相談後に「ことばの教室への通級」と「相談のみで終了」とに分かれる。）

**(3) 言語指導に係る学校との連携**

対象となる児童生徒の在籍校における特別支援教育コーディネーター及び学級担任との連絡協議会を夏季休業中に実施し、指導の充実が図られるよう連携を強化した。必要に応じて適宜、担任等へ連絡し、連携を充実させた。



**3 上記2に対する評価**

**(1) 児童生徒への言語指導**

言語聴覚士による専門的な指導により、言葉の発音等に困難を抱えている児童生徒に適切な指導や支援を行なうことができた。保護者と児童生徒の現状や通級での指導を共有することで「ことばの教室」での指導を充実させることができた。

**(2) 保護者の相談対応**

保護者の不安や児童生徒の現状について相談を受けた際、専門的な立場から助言をすることができた。学校や担任から伝えることが難しいケースも専門家として、教育センターや医療機関等を勧めることができた。

**(3) 言語指導に係る学校との連携**

特別支援教育コーディネーター等在籍校の教員との連絡協議会を実施した。事前に通級児童の資料を提供し、在籍校においてことばの指導の方法や児童の支援について、より充実した共通理解を図ることができた。また、教員の「ことばの指導」への認識も深めることができた。

**4 今後の取組方針**

保護者や児童生徒等からの相談・指導に応えるために、継続して設置していく。

**令和元年度の目標（値）**

相談、指導を行う中で、児童生徒と保護者に丁寧寄り添う。

令和元年度初任者対象の施設体験研修において講師として、「ことばやきこえ」の発達について研修を行い、教職員の資質向上に寄与する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（2022）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	桶川市発達障害・情緒障害通級指導事業		
予算額	100,000円	決算額	99,762円

**1 事業概要**

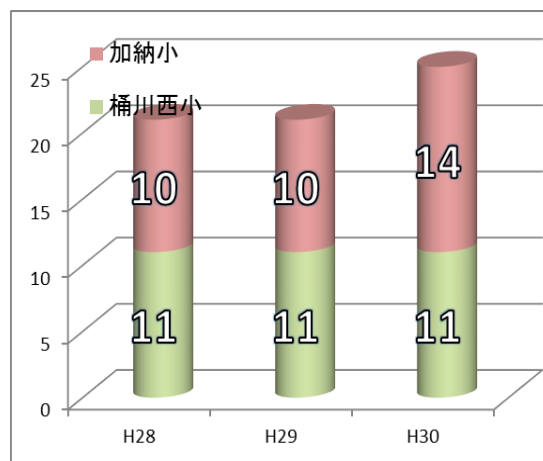
通常の学級に在籍する発達障害や情緒障害がある児童に対し、必要な教育支援を行った。

**2 事業実績**

教室通級状況（通級児童数）

平成30年度 25人

（桶川西小教室11人、加納小教室14人）  
桶川市発達障害・情緒障害通級指導教室「大空」を、桶川西小学校及び加納小学校内に開室し、学校生活や社会生活への適応に支援が必要とされる児童を対象として、担当教員による児童の状況に応じた個別指導及び少人数によるグループ学習を行った。



**3 上記2に対する評価**

- （1）保護者と在籍校教員（学級担任等）と通級教室担当教員が、連絡会をスタートに通級児童への指導・支援において連携が図られたことで、児童の成長に効果が見られた。
- （2）個別指導及び少人数指導を行うことで、通常の学級の授業に参加する力や通常の学級に適応する力を向上させることができた。
- （3）児童一人一人の状況に応じて、コミュニケーション能力の向上や、学習への苦手意識の改善等の課題解決につなげることができた。
- （4）グループ学習は、一人一人の状況に応じて取り組み、回数や日数は異なるが、継続して実施することで他の人との関わり合いの中で学習しコミュニケーション能力の向上へとつなげることができた。

**4 今後の取組方針**

児童生徒数が減少していく中、特別な配慮を必要とする児童生徒の数は増加傾向を示している。今後も通常の学級に在籍し、発達に課題のある児童生徒は0になることはないと考えられる。

インクルーシブ教育の視点からも、通常の学級において個に応じた対応が求められていく。今後、通級指導教室担当者による在籍校訪問や小中連絡会等をとおして、教職員一人一人が特別支援教育に基づいた指導が行えるようにしていく。

**5 令和元年度の目標（値）**

今後、通級指導教室への通級希望児童の増加が見込まれるため、通級指導教室担当教員と通級児童の在籍校教員の連携について継続的に実施していく。

通級指導教室の継続的な運用のためにも、指導者について、後継者を育成していく。また、中学校の通級指導教室が市内に存在しないことから、設置について県へ要望し、通級指導教室の小学校から中学校への連携を図り、桶川市として効果的な体制の構築を目指す。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校応援団推進事業		
予算額	900,000円	決算額	827,000円

**1 事業概要**

学校が家庭や地域との連携を図り、学校運営を支援する体制づくりを推進した。

**2 事業実績**

市内全小・中学校に学校応援団が設置され、各校の計画に応じて、学校支援活動が行われた。

(1) 学校支援活動の内容

ア 小学校7校（ボランティア数：759人）

(ア) 安心安全への支援：登下校の安全確保、防犯パトロール、運動会見守り

(イ) 学習活動への支援：読書タイムにおける本の読み聞かせ、夏休み学習教室、ミシンボランティア

(ウ) 環境整備への支援：ペンキ塗りや花壇・植木の剪定・除草等

イ 中学校4校（ボランティア数：128人）

(ア) 教育活動への支援：読み聞かせ等

(イ) 環境整備への支援：学校の環境整備のためのペンキ塗りや花壇・植木の剪定・除草等

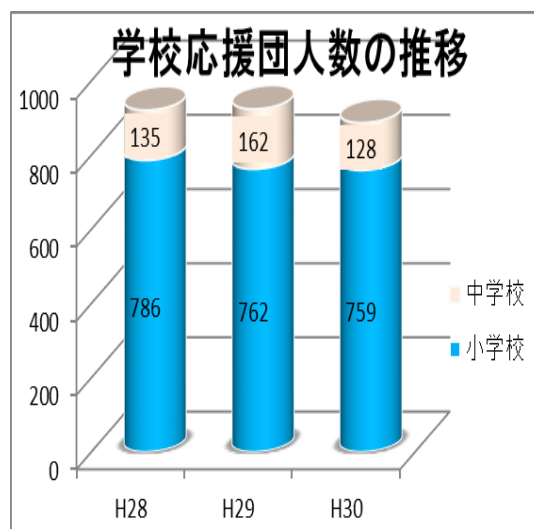
(2) 学校応援団事務局の活動

ア 学校応援団実行委員会

平成30年10月31日（水）

内容「活動内容の充実に向けて」

イ 活動報告書の作成



**3 上記2に対する評価**

(1) 学校支援活動の内容

ア 活動を通して、地域の連帯感や児童生徒と地域とのつながりがうまれた。

イ 活動が定着してきたことで、子供たちからの感謝の気持ちも強くなり、感謝の会等の取組もできた。

ウ 登下校時の事故防止や学習支援によるきめ細かな指導ができた。

(2) 学校応援団事務局の活動

ア 学校応援団実行委員会において、学校応援団コーディネーター研修会の報告を行い、コーディネーターの役割について協議することができた。

イ 各学校の取組をまとめた活動報告書を作成し、情報交換を行うことができた。

**4 今後の取組方針**

- ・各校の活動が、学校応援団コーディネーターを中心にられるように研修を推進する。
- ・地域と学校がより密接に連携を図ることで、地域・保護者の力を活用し、さらに効果的な活動にしていく。

**5 令和元年度の目標（値）**

- ・学校応援団コーディネーターの役割を明確化し、学校との連絡体制を確立する。
- ・学校応援団実行委員会では、部会ごとに意見交換や実績報告をし、今後の活動をより充実させられるようにしていく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2021）		
事業名	教職員の資質・能力の向上推進事業		
予算額	2,864,000 円	決算額	2,798,000 円
<b>1 事業概要</b>			
教職員の資質・能力の向上に向け、研修会の開催、学校訪問時の学習指導や学校課題研究への支援などを行った。			
<b>2 事業実績</b>			
(1) 学校支援課主催研修会（44,000 円）			
項 目	実施時期	内 容	参加対象者
桶川市教育講演会	5月9日	講演会「LGBTの理解とかかわり方」 小林りょう子（NPO法人LGBTの家族と友人をつなぐ会 in 東京）	全教職員
道徳教育研修会	8月1日	自校の道徳の指導力の向上に向けて	道徳主任・道徳推進教師
人権教育担当者研修会	8月1日	人権意識の高揚（人権教育に係る教材作成）	人権教育主任
管理職等人権教育研修会	1月17日	「差別の現実から深く学ぶ」 講師 部落解放同盟埼玉県連合会北足立郡協議会女性部 事務局長 古河 邦子 氏	教頭・教務主任
生徒指導・教育相談 中級研修会	8月1-3日	生徒指導・教育相談推進者として必要な 知識・技能の習得	希望教員
小学校英語活動研修	8月(各校)	英語活動の充実を図るための指導方法	小学校全教員
初任者研修	5.6.7.2月	教員として授業実践を通しての資質の向上	初任者教員
給食指導法研修会	7月27日	食育の充実に係る指導力向上	栄養教諭等
保健指導研修会	7月11日 12月10日 3月9日	心身の健やかな発達を促進するための 指導の在り方	養護教諭等
体力向上推進研修会	6月29日 11月29日	体力づくり活動やその指導方法等の内容 の充実・改善	体育主任等
(2) 学校訪問（44,000 円 講師謝礼）			
ア 教育支援担当・学力向上推進担当学校訪問 南部教育事務所の協力を得て、各学校を各1回訪問し、教育課程、学習指導、その他学校運営に係る専門的事項について指導・助言を行った。			
イ 各学校の自主研修に伴う依頼訪問 各学校の自主研修に伴い、指導主事が10回程度訪問し教科指導を行ったり、外部から講師を依頼したりして、自主研修に対する指導・助言を行った。			
(3) 学校課題研究（2,710,000 円）			
小・中学校全校に交付金を交付し、それぞれの学校の研究を支援した。 交付金額：研究1年目 140,000 円 2年目 230,000 円 3年目（本発表） 320,000 円			

また、本発表校には、研究発表会の開催に至るまで支援及び全体会での指導講評を行った。

学 校 名	研究領域	研修主題等	備 考
桶川小学校	図画工作科	ともに認め合い 生き生きと活動する 児童の育成	本発表11月30日
加納小学校	体育科	運動する楽しさやできる喜びを味わい、生き生きと活動する児童の育成	研究1年目
川田谷小学校	体育科	意欲的に運動に取り組み、心身を磨き合う児童の育成	本発表11月22日
桶川西小学校	学習指導	「考える力」を身に付けた子どもの育成	研究1年目
桶川東小学校	外国語活動	積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成	本発表10月25日
日出谷小学校	算数科	自己の考えをもち、主体的に学ぶ児童の育成 ～数学的な見方・考え方を深める授業づくりを通して～	研究2年目
朝日小学校	体育科・ 体力向上	体を動かすことを楽しみ、心身を磨き合う朝日っ子 ～基礎・基本を明確にした体育授業の工夫・改善～	研究2年目
桶川中学校	生徒指導	自己肯定感を高める生き方指導	本発表11月27日
桶川東中学校	学習指導	基礎・基本の確実な定着を目指した学習指導の工夫	本発表10月5日
桶川西中学校	道 徳	豊かな心を育む道徳教育の充実 ～「考え、議論する」道徳の実践を中心として～	研究1年目
加納中学校	学習指導	主体的に学び、確かな学力を育む指導方法の研究	研究2年目

### 3 上記2に対する評価

#### (1) 学校支援課主催研修会

各学校の教職員が、各研修会を通して、今後の教育に求められる専門的知識や児童生徒の指導に生かす指導方法について研修を実施することができた。

#### (2) 学校訪問

南部教育事務所からの支援を受け、学校訪問の際、各校の課題や実態を踏まえて教育活動の改善を図るため、指導・助言を行うことができた。

#### (3) 学校課題研究

各学校が自校の課題を解決するために、研究に取り組み、その成果を発信し、桶川市全体の教育活動の充実を図ることができた。

### 4 今後の取組方針

(1) 本市教職員の指導力向上に向けた研修を実施する。(初任者授業力向上研修、人権研修、生徒指導教育相談中級研修会等)

(2) 学校訪問での指導主事等によるきめ細かな指導・助言を行い、学力向上を図る。並びにいじめ・不登校等の状況把握及び助言の時間を設ける。

(3) 各学校の課題解決のために、研究の進捗状況に合わせて、計画的に指導・助言を行い、研究の成果が上がるよう支援する。

### 5 令和元年度の目標(値)

(1) 学校訪問のなかで学力向上だけでなく、いじめ・不登校について指導・助言を行う。

(2) 市内の主幹教諭等に教科等指導員を委嘱し、学校訪問での指導を依頼する。

(3) 市内全校で学校課題研究に取り組み、各学校の特色ある教育活動を推進する。

(4) 小学校外国語については、埼玉県英語指導力養成講座受講後の研修と夏季小学校研修の研修内容に指導・支援を行う。プログラミング教育については、夏季休業中と2学期にICT支援員等を活用し、実践研修を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	人権教育・啓発と平和の推進（205）		
基本事業	人権教育の推進（2051）		
事業名	学校教育における人権教育の推進事業		
予算額	192,000円	決算額	191,849円
<b>1 事業概要</b>			
<p>学校の教育活動全体を通じて、主体的に人権課題を解決しようとする児童生徒を育成するため、教職員の研修を実施し、各学校の人権教育推進体制の充実を図った。</p>			
<b>2 事業実績</b>			
<p>(1) 各学校における人権教育推進体制の充実</p> <p>(2) 人権作文・人権メッセージの募集と文集「かがやき」の発行（171,849円）</p> <p>(3) 教職員の研修（20,000円）</p> <p>ア 桶川市人権教育担当者研修会 8月1日（水）桶川市役所会議室303、東松山市正法寺（岩殿観音）現地研修 303会議室にて「武州鼻緒騒動」のDVD視聴後、現地へ異動し研修を実施。 参加者11人（うち、各学校人権教育担当等教諭11人）</p> <p>イ 桶川市立小・中学校管理職等人権教育研修会 桶川市役所会議室305 1月17日（金）講師部落解放同盟埼玉県連合会北足立郡協議会女性部事務局長 古河 邦子 氏 参加者17人（各学校教頭及び教務主任等）</p>			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
<p>(1) 各学校における人権教育推進体制の充実 各学校で人権教育の全体計画を作成し、各教科等の年間計画に位置付けることができた。また、「人権感覚育成プログラム」が年間計画に位置付け、実践された。さらに、いじめ問題、児童虐待について対応する組織が整備されており、学校教育での推進体制の充実を図ることができた。</p> <p>(2) 人権作文・人権メッセージの募集と文集「かがやき」の発行 各学校で人権作文及び人権メッセージに取り組み、児童生徒の人権意識の高揚を図ることができた。人権作文の文集「かがやき」を発行し、全児童・生徒に配付し活用を促した。かがやきに掲載された作文の中から南部地区人権教育実践報告会で人権作文を発表した児童もおり、啓発を高めることができた。</p> <p>(3) 教職員の研修 各学校において、校内研修で各種人権課題を取り上げ、人権感覚育成プログラムを活用した研修を実施した。また、市教委主催の研修会として、管理職対象研修、人権教育担当者対象研修で同和問題を扱い、人権教育に関する理解を深めることができた。いずれの研修でも、部落差別解消法について周知を図った。</p>			
<b>4 今後の取組方針</b>			
<p>児童生徒の指導に活用できる事例等について研修を深め、人権教育を推進する。各学校で実施される人権教育に係る校内研修の内容や法令に基づく人権課題の周知を行う。</p>			
<b>5 令和元年度の目標（値）</b>			
<p>人権教育担当者研修会及び管理職等人権教育研修会の参加教職員等を延べ、30人。</p>			

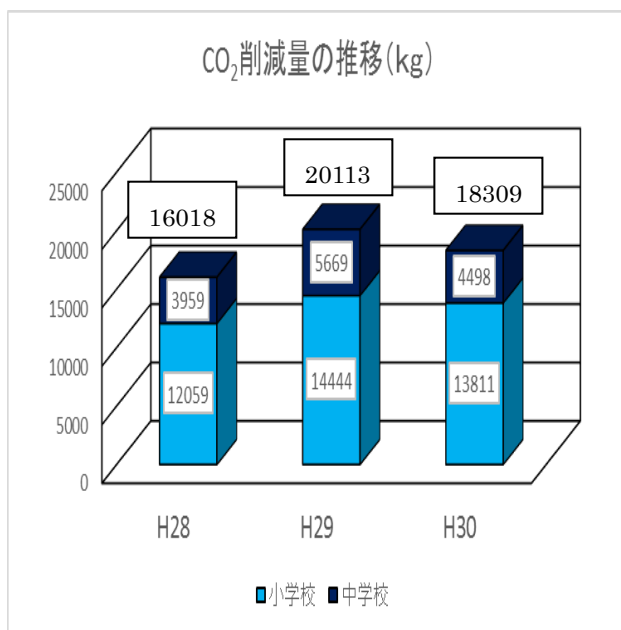
施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（2022）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	主体的に行動できる能力を育てる環境教育事業		
予算額	0円	決算額	0円

**1 事業概要**

児童生徒が環境問題に気づき、環境を守ろうとする態度を育成するための環境教育を推進した。

**2 事業実績**

- (1) 各学校において、環境教育の全体計画や年間指導計画を適切に作成し、指導の充実を図った。
- (2) 地域の自然環境や社会環境を生かして、多くの学校で行われている「学校ファーム」（サツマイモやダイコンなどの栽培）や「学校緑のグリーンカーテン運動」など、地域や外部団体と連携して学校緑化活動の推奨を行った。
- (3) 県の事業「エコライフDAY」に市内全小・中学校で取り組み、家庭と共同して二酸化炭素削減の意識を高めた。また、この結果は広報「おけがわ」に掲載し、市民の意識啓発も図っている。



**3 上記2に対する評価**

- (1) 市内全校で環境教育の全体計画・年間指導計画の作成がされており、児童生徒の実態、学校の環境に応じた指導が行われた。
- (2) 各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間と相互の関連を図る中で、児童生徒は身近な環境について問題意識をもって取り組むことができた。
- (3) 学校ごとの取組が多く、各学校で行われている実践について、その内容や方法、成果等を共有する必要がある。また、各校の取組の工夫改善が必要であり、児童生徒の実態、地域の実態を考慮して、年間指導計画等の見直しや修正を図っていく必要がある。

**4 今後の取組方針**

昨年度に引き続き「エコライフDAY」に市内全小・中学校で夏・冬2回取り組み、家庭と共同してより一層、二酸化炭素削減の意識を高めていく。また、学校応援団等、外部団体の教育力を活用し、環境教育の充実を図るとともに、ごみ減量化への意識を高めていく。

**5 令和元年度の目標（値）**

各学校における取組内容の情報交換を行う機会を設定する。また、桶川市の焼却炉の稼働停止に伴い、ごみ減量の必要があるため、児童生徒にプラスチックごみや、燃えるごみ減量のアイデア等を募集するなど意識啓発を進める。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	福祉社会の実現を目指すボランティア・福祉教育事業		
予算額	0円	決算額	0円
<b>1 事業概要</b>			
発達段階や地域の実態に応じたボランティア・福祉体験活動の推進を図った。			
<b>2 事業実績</b>			
<p>(1) 各学校において、ボランティア・福祉教育の全体計画を策定し、教科及び道德・特別活動・総合的な学習の時間等で実践した。</p> <p>(2) 中学校社会体験チャレンジ事業においては、ディサービスねむのき4名、ルーエハイム5名、やすらぎの里3名、訪問介護ステーションみやび4名、計16名が職場体験のなかで、介護について体験活動を行った。</p> <p>(3) 5年経験者研修の所属校研修の中で、1名がさといも作業所での施設研修を実施した。</p> <p>(4) 朝日小学校では、平成31年1月に、聴覚障がい理解に関わる体験活動等を行った。子供たちは、耳栓とヘッドフォンをつけ、難聴を疑似的に体験することで、難聴の方の立場に立って物事を考えていた。なお、この取り組みは県のホームページにも掲載された。</p> <p>(5) 認知症サポーター講座を市内小学校で行った。昨年度よりも実施校が増え、5校で実施することができた。参加人数460名ほどとなっている。認知症とはどういうものか、認知症の人と接する時の心がまえ、認知症介護をしている人の気持ちを理解するなど、これらの講座を聞き、児童の認知症に対する理解を深めた。</p> <p>(6) 平成30年10月21日、地域活動センターで行われた桶川市社会福祉協議会主催のボランティア見本市に、今年度は市内4中学校すべてが参加。各中学校の活動を紹介するブースを設け、他の参加団体の取組にも参加して、ボランティアについて学ぶ機会となった。</p>			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
各学校において、車いすやアイマスクの体験活動、赤い羽根等の募金活動やベルマーク収集活動、社会福祉施設等への訪問・職場体験を通して、児童生徒が発達段階に応じて、ボランティア活動・福祉体験に触れる機会を設定し、社会福祉への関心と理解を深めることができた。			
<b>4 今後の取組方針</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会の「福祉体験学習ボランティア」を活用するなど、発達段階に応じたボランティア活動・福祉体験が充実するよう、全体計画・年間計画の見直しを行う。</li> <li>・高齢福祉課と連携し、認知症サポーター講座の小・中学校全校での実施に向けて紹介し、連絡調整を行っていく。</li> </ul>			
<b>5 令和元年度の目標（値）</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階に応じたボランティア活動・福祉体験が充実するよう、小学校では全校で中学校では1校以上で認知症サポーター講座が実施できるよう啓発していく。</li> <li>・中学校チャレンジ事業での社会福祉施設への協力要請</li> <li>・ふれあいフェスタ、ボランティア見本市への参加の推奨を行う。</li> </ul>			



施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	小・中学校図書購入事業		
予算額	4,240,000円	決算額	4,208,114円

**1 事業概要**

児童生徒に本を選んで読む経験、読書に親しむきっかけを与える学校図書館の図書購入を行った。

**2 事業実績**

小・中学校全体で4,240,000円の予算を学校に配当し、小学校で2,960,000円、中学校で1,280,000円の図書を購入した。

＜過去3年間の充足率の推移＞

	標準達成率（％）		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度
小学校全体	105.2%	103.5%	101.5%
中学校全体	106.9%	104.3%	104.2%

(C) = (B) / (A)

＜平成30年度小・中学校別図書室蔵書数等＞

学校名	標準冊数(A)	増加冊数	廃棄冊数	現有冊数(B)	標準達成率(C)
全学校	118,400	3,037	4,310	121,439	102.6%
小学校全体	69,920	2,176	3,200	70,937	101.5%
中学校全体	48,480	861	1,110	50,502	104.2%
桶川小学校	11,160	231	750	12,419	111.3%
桶川西小学校	11,360	417	299	11,363	100.0%
加納小学校	8,360	285	400	8,050	96.3%
川田谷小学校	8,760	222	400	8,214	93.8%
桶川東小学校	11,960	387	527	10,866	90.9%
日出谷小学校	9,160	255	511	9,457	103.2%
朝日小学校	9,560	379	313	10,568	110.5%
桶川中学校	13,120	222	200	14,253	108.6%
桶川東中学校	11,680	207	388	11,804	101.1%
桶川西中学校	12,640	224	310	14,676	116.1%
加納中学校	10,160	208	212	9,769	96.2%

**3 上記2に対する評価**

各小・中学校とも※「学校図書館図書標準」の達成を目標として取り組んだ結果、予算の99.2%を執行し、標準達成率（小・中全体）は100%を超えることができた。

※公立義務教育諸学校の学級数に応じて学校図書館に整備すべき蔵書の標準として平成5年3月に文科省が定めた数値。

**4 今後の取組方針**

図書標準達成率は全校の平均値では100%に達しているものの、各小・中学校で100%に達していない学校もある。購入については、児童生徒の希望の図書、新聞などで話題の図書、学習の際に資料として活用できる図書、図書の10分類の偏り等を踏まえながら、児童生徒が読める量や内容に配慮して図書を購入していく。また、古くなった図書の修理や廃棄をしながら、引き続き全校学校図書館の標準達成率100%を維持する。

**5 令和元年度の目標（値）**

100%に達していない市内小学校3校、中学校1校において、学校図書館の標準達成率を100%に近づける。100%に達している学校については、増加冊数について、児童生徒のニーズにしっかり対応できるよう、質の向上を図り、図書館利用者の増加を図る。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	就学援助事業		
予算額	(学務課) 37,881,000円 (学校支援課) 120,000円	決算額	(学務課) 34,904,464円 (学校支援課) 28,900円

**1 事業概要** [学務課・学校支援課]

- (1) 児童生徒の義務教育に対する機会均等を図るため、経済的に困難である保護者に対し、就学費用の援助を行った。特別支援教育の普及・奨励と入級児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、特別支援教育就学奨励費を支給した。平成29年度より改訂した基準の運用及び新入学児童生徒学用品費の入学前支給の実施を継続した。
- (2) 要保護、準要保護の認定がなされた世帯の児童生徒に対し、学校保健安全法で定められた疾病の医療費の援助を行った。

**2 事業実績**

- (1) 平成30年度就学援助費執行状況 [学務課] ( ) は平成29年度実績

	要保護	準要保護	学用品 (要・準要保護)	学校給食費 (準要保護)	新入学学用品費 (入学前)	特別支援教育 就学援助費
小学校	3人 (6人)	260人 (258人)	5,912,747円	10,378,901円	14人(18人) 568,400円	31人(31人) 1,895,028円
中学校	2人 (5人)	176人 (177人)	7,657,848円	8,111,368円	48人(49人) 2,275,200円	19人(23人) 1,567,651円

- (2) 平成30年度医療費補助執行状況 [学校支援課] ( ) は平成29年度実績

	要保護	要保護 件数	準要保護	準要保護 件数	金額
小学校	1人(0人)	1件(0件)	1人(2人)	2件(2件)	28,900円
中学校	0人(0人)	0件(0件)	0人(0人)	0件(0件)	0円

**3 上記2に対する評価** [学務課・学校支援課]

- (1) 子の就学に経済的な支援が必要な保護者に対し援助を行った。認定基準に基づき、所得だけでなく家庭状況や学校長、担任の所見等を考慮し適正に支給することができた。また、平成29年度より運用を始めた改訂基準及び新入学児童生徒学用品費の入学前支給を滞りなく実施し、申請者に寄り添った援助を行うことができた。  
市内全児童生徒の家庭への案内配付と併せ、広報紙、市HP等に掲載し、申請促進を図ることができた。また、案内文書の文言を申請者の心情に配慮したものにした。
- (2) 医療費受給者に対して適正に医療費の援助を行うことができた。また、学校、医療機関などと連携を密にし適正に事務処理を行うことができた。

**4 今後の取組方針** [学務課・学校支援課]

- ・社会状況の変化に柔軟に対応した支給を行えるように予算の確保を行っていく。
- ・個人番号(マイナンバー)を利用した情報連携を行うことで、市外からの転入者の利便性を図る。
- ・学校事務担当者の事務処理上の取扱いについて問題が生じないように、周知徹底を図るとともに、迅速かつ適正な事務処理を継続していく。

**5 令和元年度の目標(値)**

援助の必要な保護者がより申請しやすくなるように、年2回の案内配付や広報誌の掲載(2月、10月)、市HP掲載の他、窓口案内表示を行うことで、制度の周知を図るとともに、適正で迅速な事務処理を継続する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（2022）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校評議員会の設置事業		
予算額	369,000円	決算額	343,375円
<b>1 事業概要</b>			
<p>学校、家庭、地域が連携協力しながら一体となって児童生徒の健やかな成長を担っていくことを目的として、教育委員会が各小・中学校の学校評議員を委嘱し、地域に開かれた学校づくりをより一層の推進を図った。</p>			
<b>2 事業実績</b>			
<p>学校評議員とは、児童生徒の健やかな成長のため、地域に開かれた学校づくりをより一層推進する観点から、校長の行う学校運営や学校の教育活動に関し意見を述べ、又は助言を行う者である。</p> <p>各学校では、定期的に学校評議員会を開催し、学校運営等について貴重な意見や助言を受け、学校運営に活用している。</p> <p>委員数：5名（11校）、計55名  （謝金 6,700円×51名＝341,700円  6,700円×1/4×1名＝1,675円）  ※市の職員3名を除く</p> <p>開催回数：2回（1校）、3回（9校）、4回（1校）</p> <p>主な内容：〈説明・見学〉「学校概要説明」「学校評議員制度の説明」「学校運営協議会について」「授業・行事参観」「施設設備見学」「給食試食」等  〈意見交換〉「教育活動…小中連携、参観の感想、ICTの活用等」「児童生徒の状況…地域での様子（あいさつの状況）等」「学力・学習状況調査の結果…分析、成果と課題等」「安全について…登下校、食物アレルギー、情報メールの活用等」「いじめ・不登校対策について、学習環境・言語環境」</p>			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
<p>(1) 通学時や放課後、休日などの地域や児童生徒の様子を伺い、学校と家庭や地域で指導の一貫性をもたせることができたとの報告を得た。学校評議員からの情報や意見を、各校の実態に応じて教育活動に生かすことができた。</p> <p>(2) 学校ごとの課題に対し、評議員から具体的な意見や助言をいただくとともに、地域の情報の収集も行え、教育活動の充実・改善・推進に役立てている。</p> <p>(3) 授業参観や学校公開に併せて実施することで、学校の教育活動の様子を参観していただくとともに、保護者にも評議員について知ってもらう機会としている。</p>			
<b>4 今後の取組方針</b>			
<p>(1) 学校運営協議会設置に向けた学校・保護者・地域への啓発を進め、令和3年度までに市内全小・中学校でコミュニティ・スクールをスタートする。</p> <p>(2) 各学校の実態を踏まえ、学校評議員会においても課題意識の共有を図る等のあり方を工夫する。</p>			
<b>5 令和元年度の目標(値)</b>			
<p>学校運営協議会についての理解を図り、設置に向けた準備を進めるとともに、地域に開かれた学校づくりをより一層推進する。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（2022）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校関係者評価委員会の設置事業		
予算額	72,000円	決算額	72,000円
<b>1 事業概要</b>			
教育委員会が学校関係者評価委員会委員を委嘱し、学校が行う自己評価の客観性及び透明性を高め、教育活動その他学校運営の改善を図った。			
<b>2 事業実績</b>			
学校関係者評価委員会は、学校が行う自己評価結果の妥当性を評価することを通じて、学校の自己評価の客観性・透明性を高めるために組織されている。また、学校・家庭・地域が学校運営の現状と課題について共通理解を深め、相互の連携を促し、学校運営を評価し、工夫・改善を促進する役目も担っている。			
委員数：8名（6校）、7名（5校）計83名 （謝金 4,000円×18名＝72,000円）			
※謝金対象者は学校評議員を兼務、接続している学校の職員を除く			
活動回数：2回（7校）、3回（3校）、4回（1校）			
主な内容：学校の教育活動視察、学校自己評価の報告を受けての協議 学校評価結果と教育活動や児童生徒の状況についての懇談・意見交換			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
(1) 客観性・透明性を高めた学校の自己評価を市内全小・中学校でHPに掲載し周知することができた。			
(2) 学校が自己評価を学校関係者評価委員に説明し、それに対して客観的な評価をもらうことで、日々の教育活動の内容の充実に生かすことができた。			
(3) 「学習指導について、生徒との信頼関係が確立しており、Aは妥当な評価だ。」「環境教育について、いつ来ても清掃が行き届いており、掲示物が多く明るい雰囲気もある。A評価は妥当である。」などといった意見をいただくことで、教職員の自信ややりがいへとつながっている。また、指摘された課題について各校が継続的に取り組むことで、よりよい学校づくりに寄与している。			
(4) 平日の日中開催であるため、全員参加が難しい。限られた時間の中で論点を絞った会のもち方の工夫等、改善が必要である。			
<b>4 今後の取組方針</b>			
(1) 学校運営協議会設置に向けた学校・保護者・地域への啓発を推進し、令和3年度までに市内全校がコミュニティ・スクールをスタートさせる。			
(2) 学校関係者評価委員会の評価を活かしたPDCAサイクルの構築を行い、次年度以降の学校経営に反映させる。			
<b>5 令和元年度の目標(値)</b>			
学校運営協議会についての理解を図り、設置に向けた準備を進めるとともに、学校関係者評価委員会を通して明確になった課題をもとに、地域に開かれた学校づくりをより一層推進する。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
策	学校教育の充実（2022）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校運営協議会設立準備委員会の設置事業		
予算額	217,000円	決算額	188,834円
<b>1 事業概要</b>			
<p>地域とともにある学校づくりを推進するために、平成31年度（令和元年度）より加納小学校・川田谷小学校に設置することとなった学校運営協議会のスタートに向けて、研修や諸準備を進めた。</p>			
<b>2 事業実績</b>			
<p>保護者及び地域住民等（以下「地域住民等」という。）の学校運営への参画並びに地域住民等による学校運営への支援及び協力を促進することにより、学校、地域住民等との信頼関係を深め、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成に取り組むことを目的として、準備委員会を実施している。</p> <p>準備委員数：13名（謝金 2,000円×5回×10名＝100,000円） ※市の職員・校長を除く</p> <p>開催回数：5回        主な内容：CSマイスターを招いての研修会（講師は無償の文科省の推進事業を活用）        桶川市学校運営協議会規則について        年間活動計画・周知・啓発に係る意見聴取        熟議（地域や学校の課題について・育てたい児童像について等）        連携・協働のイメージマップ作り・組織について</p> <p>啓発パンフレットの作成：2000部        CSNEWS、学校運営協議会の手引き冊子の作成・配付        *熟議…多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと。「文部科学省HPより」</p>			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
<p>(1) 研修会については市内全小・中学校の職員やPTAにも参加を呼びかけ、各校より多くの参加者（35名）を得て、学校運営協議会の理解を深めることができた。</p> <p>(2) 桶川市学校運営協議会規則を桶川市の実態に即した形で、準備委員の意見も参考にしながら策定することができた。</p> <p>(3) 熟議を通して、地域や学校の課題や育てたい児童像について思いや願いを共有することができた。</p> <p>(4) 年間の大まかな活動計画について共通理解できたことで、第1回学校運営協議会開催に向けた準備を行うことができた。</p>			
<b>4 今後の取組方針</b>			
<p>(1) 令和3年度に桶川市内全小中学校に学校運営協議会が設置されるよう、教職員をはじめ、家庭、地域への周知・啓発を積極的に行う。</p> <p>(2) 今後、設立準備委員会を経ずに学校運営協議会を設置する学校のための見学兼研修会をモデル校において実施する。</p>			
<b>5 令和元年度の目標(値)</b>			
<p>小学校のモデル校として加納小学校・川田谷小学校の実践を広め、学校運営協議会の見学会兼研修会を実施し、小学校における本格導入の推進を図る。また、中学校のモデル校として桶川西中学校に設立準備委員会を設置し、令和2年度の本格導入に備える。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	教職員の管理業務事業		
予算額	1,819,000円	決算額	1,810,500円

**1 事業概要**

桶川市立小・中学校教職員の事故防止、及び市費対応に係る臨時的任用教職員の配置を行った。

**2 事業実績**

(1) 教職員事故発生件数（件）

体 罰	0
酒酔い運転及び酒気帯び運転での交通事故	0
わいせつ行為等（セクハラを含む）	0
その他・非違行為等	0

(2) 欠員補充に係る臨時的任用教職員の配置状況

	欠員補充者（人）	市費負担日数（日）	市費負担費用（円）
小 学 校	6	87	739,500
中 学 校	8	110	935,000
合 計	14	197	1,674,500

(3) 病休等（8日以上）に係る臨時的任用教員の配置状況

	病休等者(人)	代替者(人)	市費負担日数(日)	市費負担費用(円)
小 学 校	4	2	16	136,000
中 学 校	4	0	0	0
合 計	8	2	16	136,000

**3 上記2に対する評価**

- (1) 各校に倫理確立委員会・教職員事故防止の研修会の実施及び報告を徹底した。  
 (2・3) 欠員補充・病休等に係る臨時的任用教職員を県費発令までの間、市費で補うことで児童生徒の指導に空白を作らないよう教職員を配置し、教育活動が着実に行われたものの年度当初で予算を超える結果となった。

**4 今後の取組方針**

- (1) 事故防止に向けた研修を確実に実施させ、「教職員の服務規律の徹底」「当事者意識の高揚」を図り、教職員事故の防止に努める。  
 (2) 臨時的任用教職員の確保については、広報おけがわや市HPなどで広く募集し、南部教育事務所や近隣市町教委とも連携を図りながら人員を確保する。  
 (3) 各校の衛生推進者を中心に労働環境を整備するとともに、風通しの良い職場づくりを推進する。業務改善・負担軽減に向けた取組を推進する。

**5 令和元年度の目標(値)**

- ・重点項目を定め、教職員事故絶無に向けた啓発活動の推進を図る。
- ・急な病気休暇等にも対応できるよう、臨時的任用教職員を確保に努める。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	教職員の資質・能力の向上推進事業		
予算額	50,000円	決算額	50,000円
<b>1 事業概要</b>			
教職員の資質・能力の向上を図るため、人事評価や各種研修会、教員免許更新確認を行った。			
<b>2 事業実績</b>			
(1) 教職員人事評価			
(2) 研修会の開催			
ア 人事評価に係る評価者研修会（実施月：4月 参加者：市内全小・中学校長）			
イ 夏季学校経営・運営研究協議会（決算額 50,000円）			
（実施月：8月、参加者：市内全小・中学校 校長・教頭・主幹教諭）			
講師：福島県本宮市五百川小学校 校長 安齋 宏之 氏（CSマイスター）			
演題：「地域みんなでつくる子どもの未来 ～CSを活用した「地域とともにある学校」づくりを通して～」			
ウ 臨時的任用教職員研修会（実施月：7月、3月 参加者：各49名）			
(3) 教員免許更新対象者の更新講習受講確認			
平成30年度末免許更新講習終了期限者 100%更新			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
(1) 教職員人事評価の実施			
評価者である校長・教頭が教職員に自己評価シートに基づき計画的に面談（当初・中間・最終）を行った。各小・中学校の校長の学校経営方針と個々の教職員の目標の連鎖をさせることで学校全体の教育力を向上させるよう、自己評価シートをもとにした当初面談の充実を呼びかけ、「チーム学校」の意識が高まった。			
(2) 研修会の開催			
ア 人事評価に係る評価者研修会では、管理職に適切な人事評価制度の運用について理解させることができた。			
イ 校長・教頭部会のみならず、主幹教諭部会を開催することで、学校の教育力強化を支援することができた。			
ウ グループ協議を取り入れた演習を実施したところ、参加者による事後アンケートの満足度では、「十分満足（84.7%）」或いは「やや満足（13.3%）」と4段階評価の上位2つで100%の結果となり、実践的な研修の機会とすることができた。			
(3) 教員免許更新対象者の更新講習受講確認を徹底し、適正な免許更新が行われた。			
<b>4 今後の取組方針</b>			
(1) 人事評価制度の適切な運用のための情報提供と研修会の充実を図る。			
(2) 主体的な学びを取り入れた実践的な研修の計画・実施する。			
(3) 教育委員会保管の教員免許状写しの保管と所有免許状の調査を行う。			
<b>5 令和元年度の目標(値)</b>			
(1) 人事評価制度を適切に運用し、公正公平な教職員の評価に努める。			
(2) 各種研修会においては、人材の育成と学校の教育力の向上を目指し、各課題や満足度調査等に対応した内容を企画、立案する。			
(3) 教員免許更新対象者に応じた免許更新の方法について周知を図る。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	PTAリーダー研修会		
予算額	25,000円	決算額	0円
<b>1 事業概要</b>			
小・中学校PTA役員等を対象に、各小・中学校PTA活動の促進及び家庭教育のあり方等について研修を行った。			
<b>2 事業実績</b>			
開催日・会場：平成30年5月25日（金） 桶川東公民館 大会議室			
テーマ：「楽しいコミュニケーションを考えよう！」			
講師：LINE株式会社 高橋 誠 氏			
参加者：44人			
	28年度	29年度	30年度
参加者数	50人	48人	44人
<b>3 上記2に対する評価</b>			
(1) PTA活動の促進と役員の意欲づけについて			
ワークショップを実施し、参加者同士で意見交換をしながら講演会を進める形をとった。参加者自身に考えさせる参加型の研修形式にしたことで参加者の課題意識が高まり、参加者からも「有意義だった」との声を多く聞くことができた。			
(2) 参加者へ向けた日程調整について			
学校行事や講師の都合も含めて調整を行ったが、一部の小学校の運動会前日（準備日）と重なってしまった。PTAの負担が大きい為、事業の実施方法自体を見直しする必要がある。			
<b>4 今後の取組方針</b>			
(1) 本事業のねらいは「子供たちの健やかな成長を願い、健康で心豊かな家庭づくりを進めること」であることから、関係機関の情報等も活用し、今日的な親の悩みに応えられるような研修内容、講師の選定などを行う。			
(2) 参加者数については、ほぼ例年どおりであるが、今後も各学校への働きかけを促進し効果的な研修となるよう計画していく。			
(3) 講演内容等のニーズを把握し、興味関心に応じたテーマを設定し、参加者の拡大を図る。			
(4) 市PTA連合会総会（5月第3土曜日）においても講演会を行っており、PTA役員の負担軽減の面からも、講演会のあり方、日程調整等について検討していく必要がある。			
<b>5 令和元年度の目標（値）</b>			
より多くのPTAが参加できるよう、講演内容や実施方法を検討し、実施する。			



施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事 業 名	PTA家庭教育講演会		
予 算 額	381,000 円	決 算 額	273,230 円
<b>1 事業概要</b>			
小・中・高校のPTAが連携し家庭教育の充実を図るため、桶川市PTA連合会と高等学校PTAとの共催で、PTA家庭教育講演会を開催した。			
<b>2 事業実績</b>			
PTA家庭教育講演会『手をつなごうPTAべに花講演会』			
開催日・会場：平成31年1月19日（土） 桶川市民ホール			
講演会：「ビリギャル流不可能を可能に変える5つのルール」			
小林 さやか 氏（坪田信貴著「学年ビリのギャルが一年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話」の主人公ビリギャル本人）			
内 容：講演のほか、桶川高等学校ダンス部、桶川高等学校合唱部、桶川西高等学校科学部による発表、桶川高等学校・桶川西中学校吹奏楽部による演奏、桶川西高等学校美術部による展示			
対象者：小・中学校PTA会員、桶川高等学校・桶川西高等学校PTA会員、一般市民			
参加者数：500人			
	参加者数	H28年度 600人	H29年度 640人
			H30年度 500人
歳出：講師料100,000円、使用料173,230円			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
(1) 家庭教育力の向上と青少年の健全育成について			
より幅広い年齢層の子供たちを育てるという趣旨のもと、今年度も教育委員会、市PTA連合会、桶川高等学校・桶川西高等学校PTAとの共催で事業を行った。このことにより、各PTA間の連携が図られ、大変有意義な事業となった。また、幅広い保護者の意識の向上と教養を深めることができた。			
(2) 講演会の内容について			
講師自身の経験から子どもの才能を伸ばすコツや、本気を出す方法などについてご講演をいただき、来場された方のアンケートでは99%の方が満足と回答した。			
<b>4 今後の取組方針</b>			
本事業は、家庭が子供の教育に対する責任を自覚し、本来果たすべき役割を見つめなおす機会をつくることを目的に開催されている。市内に、小・中・高等学校がある強みを生かし、合同で実施することによって家庭、地域の教育への関心を高められるよう、内容を検討する。広報活動（広報・保護者向け便り等）を効果的に行う。			
<b>5 令和元年度の目標（値）</b>			
・講演会においてアンケートを実施し、参加者の満足度を捉える。（満足度85%以上）			
・講演内容等のニーズを把握し、興味関心に応じたテーマを設定する。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	「親の学習」講座		
予算額	55,000円	決算額	50,000円
<b>1 事業概要</b>			
より多くの保護者に、子育てやしつけ等の家庭教育のあり方を見つめ直してもらうよう「親の学習」講座を行った。			
<b>2 事業実績</b>			
小学校では、埼玉県家庭教育アドバイザーの永原敏明氏を指導者として、子どもを育てる環境についてや『居甲斐』のある家庭について等をテーマに、家庭教育に関する学習を行った。			
【※ 居甲斐（いがい）とは、造語ですが、居心地の良い場所と言う意味です。】			
中学校では、同じく永原敏明氏を指導者として、思春期の特徴や思春期の子との付き合い方等をテーマに講座を行った。			
(1) 参加状況は下表のとおり。歳出：講師謝礼 50,000円			
小・中学校名	対象者数(人)	参加者数(人)	参加率(%)
桶川西小	112	112	100.00%
加納小	49	49	100.00%
川田谷小	31	29	93.54%
桶川東小	143	142	99.30%
日出谷小	75	72	96.00%
朝日小	72	71	98.61%
桶川小	115	114	99.13%
小計	597	589	98.66%
桶川東中	169	165	97.63%
加納中	123	114	92.68%
桶川西中	167	54	32.34%
桶川中	161	146	91.68%
小計	623	479	76.89%
<b>3 上記2に対する評価</b>			
(1) 小学校では、各校に協力を要請し、児童が保護者から離れて健康診断を受けている時間に、家庭教育アドバイザーの講話を効果的に提供することができた。 小学校においては、子育てや子供との関わり方へのヒントを聞くことができたという声をいただいた。			
(2) 中学校では、学校説明会の際に親の学習講座の時間を設定し、思春期にある子どもへの接し方等について親としてどうすべきかという講座を行った。			
<b>4 今後の取組方法</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>実施時期について、小学校では就学時検診時、中学校では入学説明会前での講座開催という形が定着している。多くの保護者の参加を考えると、この時期の実施が効果的だと思われるため、令和元年度も実施していく。</li> <li>テーマについては、今後も必要に応じて検討、見直しを図っていく。</li> <li>講座後にアンケートを行い、保護者が聞きたい内容の調査を行う。</li> </ul>			
<b>5 令和元年度の目標（値）</b>			
親の学習講座についてアンケートを行い、満足度85%以上をめざす。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	生きる力を育む活動の充実（2031）		
事業名	成人式典		
予算額	439,000円	決算額	420,243円

**1 事業概要**

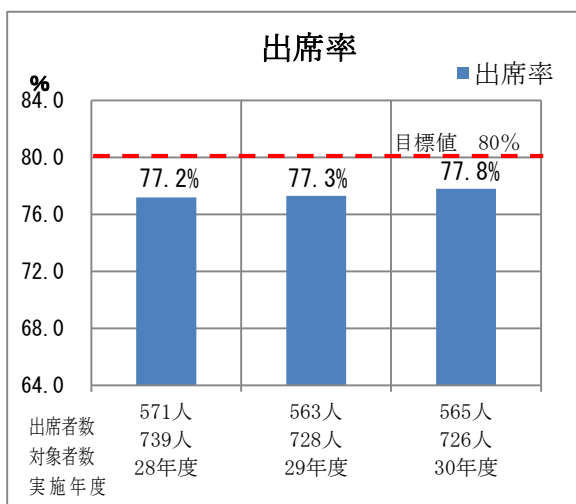
「成人の日」を成人になったことを自覚する記念の日とし、新成人の新しい門出とともに祝福するとともに、将来の幸福を祈念するために、成人式典を実行委員会方式にて実施した。

**2 事業実績**

開催日・会場：平成31年1月13日（月）成人の日 桶川市民ホール

テーマ：「愛・友・新 #平成最後の成人式」

開催内容：オープニングイベント、第1部 式典、第2部 アトラクション



**【実行委員会】**

広報による公募や卒業中学校から推薦された新成人19人で構成され、成人式典の企画、案内状発送作業及び前日準備、当日の運営について主体的に行った。

新成人式研究会主催の第19回「成人式大賞 2019」（文部科学省後援）では努力賞に選ばれ、平成21年から11年連続受賞となり、継続して高い評価を得られている。

歳出：消耗品等需用費 184,333円、施設使用料 235,910円

**3 上記2に対する評価**

- (1) 実行委員については19名中公募が13名と大半を占めており、高い積極性が実行委員会の運営及び準備につながった。実行委員は実行委員長主導のもと、式典の企画、準備、当日の運営を主体的に行い、式典を終えることができた。
- (2) 当日は教育部職員の協力をいただき、またオープニングイベントを今回も実施したことで、落ち着いた式典を開催することができた。

**4 今後の取組方針**

- (1) 実行委員の応募を広報、ホームページだけでなく、市のツイッター等 SNS も使用して周知を図り、今後も公募者が多くなるように工夫する。
- (2) 新成人の参加率が増加するように、周知方法と案内状を実行委員と検討する。
- (3) 来場する保護者が増えたため、保護者の席を確保できるよう運用方法を検討する。

**5 令和元年度の目標（値）**

出席率 80%以上

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	青少年育成活動の支援と推進（2032）		
事業名	放課後子供教室事業		
予算額	18,856,000円	決算額	18,771,902円

### 1 事業概要

子供たちが、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる安全かつ安心な居場所づくりを目的に桶川市放課後子供教室を運営した。

### 2 事業実績

(1) 国が推進している「放課後子ども総合プラン」に基づき、市内全小学校で放課後子供教室を実施した。

(2) スタッフ（コーディネーター、教育活動推進員、安全管理員、協力員）及び運営委員会（学校長、PTA、自治会及び行政関係者、コーディネーター）を設置した。

（表は平成31年3月31日時点。表中のカッコ内は前年度実績。「スタッフ人数」は登録者(団体)数。）

学校名	参加児童数 (人)	活動日数(日)	スタッフ人数 (延べ人数)	開室年度
桶川東小学校	29(30)	123(123)	29人・9団体	H24
日出谷小学校	41(39)	122(121)	28人・11団体	H24
桶川西小学校	46(42)	143(139)	33人・14団体	H27
朝日小学校	41(38)	138(150)	30人・9団体	H27
桶川小学校	47(45)	143(157)	21人・7団体	H28
加納小学校	33(30)	139(148)	20人・9団体	H28
川田谷小学校	24(11)	152(148)	29人・7団体	H28
合計人数	261(235)	—	—	—

(3) 事業方針については、以下のとおり。

- ・交流の場を設けることにより、地域住民及び異なる学年との交流を支援する。
- ・体験の場を設けることにより、文化活動、体験活動、スポーツ活動等を支援する。
- ・学びの場を設けることにより、自主的な学習を支援する。

主な歳出：報償費 16,001,220円、空調機借上 1,548,720円、消耗品費 743,620円

### 3 上記2に対する評価

- ・年間の活動を通じてスタッフと参加児童、参加児童同士、スタッフ同士の信頼関係を深めることができた。また、学校側・保護者側の理解を深めることができた。
- ・アンケートでは子供たちだけではなく、保護者からも「他クラスや他学年の友達が増えて学校生活にも馴染めた」、「親では教えてあげられないことを経験させられた」、「子供が『今日は何を作ったよ、何したよ』と楽しそうに話してくれる」などといった高評価を得られた。
- ・放課後児童クラブとの連携事業は、月1回程度の開催が定着化しつつあり、コーディネーターとクラブの支援員との間で良好な関係を築くことができている。

#### **4 今後の取組方針**

引き続き安定した事業となるよう、各学校のスタッフ・校長・放課後児童クラブとの調整を綿密に行う。

スタッフによる事業運営について、細かな事務の取扱いや事業の運用方法等についてできるだけ全校統一したものになるよう、スタッフとの協議を行う。

#### **5 令和元年度の目標（値）**

引き続き、各校それぞれの特色が出る放課後子供教室を実施する。また、スタッフの人員確保及び個々の能力の向上を図るため研修会を実施する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	青少年育成活動の支援と推進（2032）		
事業名	青少年健全育成事業		
予算額	2,178,000円	決算額	2,143,090円
<b>1 事業概要</b>			
<p>青少年育成活動を推進するために、以下の3事業を行った。</p> <p>(1) 青少年問題協議会の開催</p> <p>(2) 青少年健全育成市民会議の推進</p> <p>(3) 青少年育成団体への支援</p>			
<b>2 事業実績</b>			
<p>(1) 青少年問題協議会の開催</p> <p>第1回：平成30年7月17日（火）</p> <p>内 容：①桶川市青少年健全育成指針等について ②意見交換等</p> <p>第2回：平成31年2月19日（火）</p> <p>内 容：①桶川市青少年健全育成指針の見直しについて</p> <p>(2) 青少年健全育成市民会議の推進</p> <p>ア 総会・講演会の実施（5月27日、桶川東公民館で開催）</p> <p>「子どもたちに自分らしく生きていく力を」～車いすから見える世界をとおして～をテーマに、講師に又野亜希子氏を迎え、講演会を実施。参加者数 108 人（前年度 99 人）。</p> <p>イ 「私たちの主張」作文コンクール及び「家庭の日」ポスターコンクールを実施</p> <p>ウ 市民大会の実施（11月18日、桶川東公民館で開催）</p> <p>青少年育成埼玉県民会議より補助金を受けて、青少年育成功労賞の表彰、作文・ポスターコンクール入賞者の表彰及び講師に「特定非営利活動法人 日本ガーディアン・エンジェルス 理事長 小田啓二氏」を迎え、「子どもを非行や犯罪から守る 親と地域のチカラ」をテーマとする講演会を行った。</p> <p>参加者数 184 人（前年度 193 人）。</p> <p>エ 市民会議広報「ひまわり」の発行（1月1日発行 全戸配布）</p> <p>オ 親子ふれあいウォークの実施</p> <p>第1回【10/6】川田谷地区 参加者数 155名</p> <p>第2回【10/20】加納地区 参加者数 54名</p> <p>カ おけがわ春のふれあいフェスタへの参画（5月13日、駅西口公園で開催）</p> <p>キ 巡回指導の実施 延べ345人（前年度302人）。</p> <p>(3) 青少年関係団体への支援</p> <p>各青少年関係団体や事業に、補助金等の交付や公共施設の利用の支援を行った。</p>			

〔補助金等交付実績〕

件 名	金 額
桶川市青少年健全育成市民会議交付金	722,000 円
桶川市子ども会育成連絡協議会補助金	680,000 円
青少年相談員協議会補助金	154,000 円
おけがわ春のふれあいフェスタ実行委員会交付金	500,000 円

### 3 上記2に対する評価

- (1) 青少年問題協議会の活動については、桶川市青少年健全育成指針の見直しについて活発な意見交換が行われた。
- (2) 青少年健全育成市民会議については、総会及び市民大会の講演会を今日的なテーマとし、参加者にとって興味深いものになった。巡回指導の実施については、目標値の延べ300人を上回る活動を行うことができた。
- (3) 青少年育成団体への支援については、財政的な支援を行うことで、青少年健全育成の推進が図られた。

### 4 今後の取組方針

- (1) 青少年問題協議会については、桶川市青少年健全育成指針の見直しについて、それぞれの立場からご意見を伺い、新しい指針を策定する。また、協議会で得られた情報を青少年健全育成市民会議の活動に反映できるよう、更なる連携を深めていく。
- (2) 青少年健全育成市民会議については、時代に即した事業を展開し、満足度の高い講演会を実施する。
- (3) 青少年育成団体への支援については、青少年相談員委嘱者数が減少傾向にあるため、中学生等にチラシを配布し、活動内容を広く周知する。また、今後とも積極的に事業ができるよう財政支援等を行い、青少年育成団体の活動を促進していく。

### 5 令和元年度の目標（値）

青少年健全育成市民大会参加者数 200人  
 親子ふれあいウォーク参加者数 200人  
 巡回指導員の活動数が延べ350人以上

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	生涯学習情報の提供		
予算額	26,000円	決算額	24,422円
<b>1 事業概要</b>			
生涯学習に係る情報を広く市民に知っていただくため、生涯学習関連の情報紙を発行するとともに、ホームページ上にも各種情報の掲載を行った。			
<b>2 事業実績</b>			
生涯学習情報の提供：一般市民及び児童生徒向けに以下の情報提供を行った。			
(1) 情報紙「生涯学習ガイド」の発行			
市内で開催される講座等の情報を掲載した情報紙「生涯学習ガイド」を年3回（4月300部、8月338部、12月310部）発行し、公民館等の公共施設に設置、市民の学習機会について周知を行った。また、同様の内容について、市ホームページへの掲載を行った。			
(2) 児童生徒向け学習情報紙の発行			
夏休みに開催される、主に小・中学生を対象とした催し物を紹介する「今度は何をしようかな？」を7月に発行し、児童生徒に配布した。また、公共施設にも設置した。			
歳出：需用費 24,422円			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
各課・施設の協力の下、幅広く情報を収集し、市民及び児童に対し情報提供を行うことができた。また、生涯学習ガイドの発行に伴い、幅広く情報の提供ができた。			
<b>4 今後の取組方針</b>			
生涯学習情報の提供については、今後も各課・施設と連携を図り、幅広く情報を収集し、内容の濃い情報誌を作成していく。			
<b>5 令和元年度の目標（値）</b>			
・各課・施設に協力を呼びかけ、掲載する情報量を増やす。			



施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	職員出前講座		
予算額	0円	決算額	0円

**1 事業概要**

市民の学習環境の向上を図りつつ、市民と行政との交流を深めることを目的に、市職員が各部署の分掌事務に基づく学習メニューを用意し、市民の要請により講師を派遣して講座を開催した。

**2 事業実績**

実施回数：23回

参加延人数：1,569人

〔実施内容〕

	28年度	29年度	30年度
回数	13回	19回	23回
延人数	796人	1,393人	1,569人

	担当課	講座名	利用団体	参加人数
1	健康増進課	オケちゃん健康体操	一般	35
2	財政課	桶川市の財政状況について	中学生	157
3	リサイクル推進課	みんなで作る循環型社会	中学生	159
4	健康増進課	生活習慣病予防について	中学生	152
5	高齢介護課	介護予防教室	一般	30
6	生涯学習文化財課	桶川の歴史と民俗	中学生	159
7	人権・男女共同参画課	人権を身近なものに	中学生	152
8	歴史民俗資料館	桶川を知ろう	中学生	156
9	産業観光課	べに花ってなあに？	中学生	159
10	健康増進課	健康長寿サポーター養成講座	一般	16
11	自治文化課	悪質商法にはだまされない！	一般	25
12	生涯学習文化財課	特製メニュー（歴史ある桶川の遺跡を見てみよう）	一般	46
13	健康増進課	生活習慣病予防について	一般	10
14	健康増進課	オケちゃん健康体操	一般	10
15	職員課	市長、職員の給与について	一般	5
16	環境課、歴史民俗資料館、健康増進課、生涯学習文化財課	特製メニュー	小学生	78
17	自治文化課	悪質商法にはだまされない！	一般	38
18	健康増進課	生活習慣病予防について	一般	13
19	歴史民俗資料館	桶川を知ろう	一般	21
20	歴史民俗資料館	桶川を知ろう	一般	30
21	リサイクル推進課	みんなで作る循環型社会	小学生	54
22	社会福祉課	桶川市の困窮者支援	一般	27
23	健康増進課	心の健康について	中学生	37

### 3 上記2に対する評価

講座メニューは31講座（特製メニュー含む）があり、そのうち上記〔実施内容〕の講座が利用された。広報やホームページへの掲載、校長会や区長会及び当課関係各所へ周知したことにより、利用件数が増加した。

なおリピーターとして、自治会や学校が毎年同じ講座であったり、昨年度とは違った講座であったりと、職員出前講座を頻繁に利用していただいている。今後も新規利用団体等を増やすことができれば、波及効果は大きく利用回数も伸びていくことと考えられる。

### 4 今後の取組方針

- ・問合せ時の市民ニーズに応じて、メニューに掲載されている講座以外でも柔軟に対応し、講座数を伸ばしていく。
- ・広く職員に職員出前講座を周知し、講座内容を増加・充実させる。
- ・引続き広報やホームページに掲載し、広く周知するとともに、関係各所を通じてPRに努める。

### 5 令和元年度の目標（値）

職員出前講座の依頼団体へ満足度調査を実施する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	市民大学の開催		
予算額	190,000円	決算額	180,000円

**1 事業概要**

多様な学習機会を提供するため、児童及び成人を対象とする以下の事業を実施した。

- (1) 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」  
 (2) 「桶川市平成市民大学」

**2 事業実績**

- (1) 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」の開設（全5回）

官学連携事業として、聖学院大学、日本薬科大学、桶川市教育委員会、上尾市教育委員会、伊奈町教育委員会からなる「子ども大学あげお・いな・おけがわ実行委員会」を組織し、違う学校・学年の児童たちが、大学のキャンパスや企業などで学ぶ「児童のための大学」を実施した。

対象者：桶川市、上尾市、伊奈町在住の小学5～6年生

定員：60人（桶川市20人） 参加者：60人（桶川市15人）

回	開催日・会場	内 容	講師など
1	6/16【日本薬科大学】	入学式 「オゾン層の破壊と紫外線の科学」	野澤直美 特任教授
2	7/ 7【日本薬科大学】	「ミクロの世界をのぞいてみよう」	齋藤博 准教授 山下裕 講師
3	8/24【UDトラックス】	「上尾市で働く外国人と英語でコミュニケーション！」	UDトラックス 猪岡琢磨 氏ほか
4	9/ 1【聖学院大学】	「英語を話したくなる絵本を作ろう」 ～ゲームと絵本で楽しむやさしい英語～	小川隆夫 客員教授
5	9/ 8【聖学院大学】	「図形楽譜で歌を歌おう！」～知っている曲を自由にアレンジ～ 発表会・修了式	久保田翠 准教授

主な歳出：子ども大学あげお・いな・おけがわ実行委員会負担金 50,000円

- (2) 「桶川市平成市民大学」の開設（9回）

生涯学習の一環として、より豊かな教養を身につけ、自らの生きがいを充実していく場として、事業を実施した。

テーマ：「生き甲斐をもって生きる」

参加者数：66人（前年度53人）参加延人数：489人（前年度410人）

主な歳出：講師等謝礼 130,000円

回	開催日	内 容	講師など
1	8/22	開講式 桶川市教育委員会教育長による講義	桶川市教育委員会教育長 岩田 泉
2	9/ 6	講義「明治 150 年—勝って『不平士族の反乱』、敗けて『民衆の民権運動』—」	立正大学 清水 多吉 名誉教授
3	9/20	講義「お金の魔力と魅力」	立正大学 秦野 眞 名誉教授
4	10/ 4	講義「免疫とアレルギー」	日本薬科大学 鈴木 勝宏 教授
5	10/18	講義「お屠蘇作り」	日本薬科大学 山路 誠一 准教授
6	11/ 1	「桶川市内歴史散策（加納地区）」	桶川市ガイドボランティア
7	11/16	講義「健康長寿につながる健康体操 ～レクリエーションで脳と身体を活性化～」	日本体育大学 大津 桂子 非常勤講師
8	12/ 6	講義「メディアの歴史と社会の変容」	東洋大学 戸田 槇一 教授
9	12/20	桶川市長による講義 桶川市議会議長による講義 閉講式	桶川市長 小野 克典 桶川市議会議長 佐藤 洋

### 3 上記2に対する評価

(1) 子ども大学あげお・いな・おけがわ

- ・各回事故等なく、安全に事業を進めることができた。
- ・参加児童に対する総合アンケートにおいて、満足度は98%だった。

(2) 桶川市平成市民大学

幅広い分野の講座を実施するとともに、講師に大学教授などを招き、内容の向上に努めたため、受講生の理解を深めることができた。6～7割はリピーターであるが、講義内容を工夫したり、新規受講生を受け入れたりすることで、多くの方に学習機会の提供を行うことができた。

### 4 今後の取組方針

「子ども大学あげお・いな・おけがわ」は桶川市分の定員20名程度の応募があるよう周知等を行う。「桶川市平成市民大学」は講座内容の充実をさらに図るため、大学等と綿密な打合せを行う。令和元年度は、聖学院大学教授の講義を入れる予定である。

### 5 令和元年度の目標（値）

参加者の満足度の維持、向上を目指す。

- (参考：① 平成30年度子ども大学参加児童満足度アンケート結果（51人回収）  
とても満足…86.2%（44人） 少し満足…11.7%（6人）  
つまらなかった…1.9%（1人）
- ② 平成30年度平成市民大学参加者アンケート結果 大変良かった…41.3%、良かった…40.7%、ふつう…15.0%、その他…3.0%）

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	文芸桶川発行		
予算額	489,000円	決算額	433,800円
<b>1 事業概要</b>			
文芸活動を通じて豊かな人間性を養い、市民文化の創造と地域文化の普及向上に資することを目的として「文芸桶川第39号」を発行した。			
<b>2 事業実績</b>			
(1) 発行部数等			
・発行部数：290部 ・無償配布部数：執筆者、市内公共施設、学校等：233部			
・有償頒布部数：28部（頒布価格：1冊800円 一般部門の応募料：400円）			
(2) 編集委員会			
文化団体連合会文学会（2人）、図書館実作協議会・俳句連盟・短歌関係団体・教育研究会（各1人）から選ばれた6人の委員による編集委員会を設置し、編集及び校正等を行った。			
(3) 掲載作品分野および掲載作品数（掲載者数）			
一般部門は応募作品全て掲載し、ジュニア部門は応募151作品から選考し、49作品を掲載した。			
○一般部門の掲載作品数（掲載者数）			
小説3編（3名）、紀行1編（1名）、随筆6編（6名）、論評1編（1名）、詩6編（6名）、短歌75首（15名）、俳句165句（33名）、川柳15句（3名）			
○ジュニア部門の掲載作品数（掲載者数）			
小説6編（6名）、紀行1編（1名）、感想文2編（2名）、短歌29首（29名）、俳句22句（22名）			
○その他、挿絵等2点（1名）			
歳出：印刷製本費388,800円、編集委員謝礼45,000円			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
ジュニア部門応募作品の審査選考を編集委員が行った。市内の文芸団体会員の高齢化によって一般部門の作品数が減少しているが、ジュニア部門の応募者が増加した。			
<b>4 今後の取組方針</b>			
・作品募集を、市広報やHPに掲載し、公民館・図書館の各施設に応募用紙を設置する。第37～39号執筆者に応募案内を送る。			
・編集委員や所属の文芸団体会員から知人などへ応募の呼びかけをしていただく。			
・表紙絵・中扉絵・挿絵は、編集委員会で作品制作者を探して依頼する。			
<b>5 令和元年度の目標（値）</b>			
閲覧場所を増やし、市民の方が目に触れる機会を増やす。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	パソコン講習とサポート事業		
予算額	1,742,000円	決算額	1,637,952円

**1 事業概要**

パソコン技術の向上を目的として、ボランティア団体である桶川ITネットとの協働事業として、市民を対象とするパソコン講座を行った。また、パソコンサポートセンターを開設し、市民からの疑問や相談に応じた。

**2 事業実績**

(1) パソコン講習の実施状況は、下表のとおりである。

講 座 名	受講者数（定員）
初心者講座（2コース）	19人（各回19人、計38人）
ワード講座（2コース）	23人（各回19人、計38人）
エクセル講座（2コース）	34人（各回19人、計38人）
インターネット初級講座（2コース）	33人（各回19人、計38人）
年賀状作成講座（2コース）	30人（各回19人、計38人）
合 計	139人

(2) パソコンサポートセンターについては、パソコンの活用に関する疑問や相談に応じるため、毎週金曜日に東公民館3階パソコンルームにおいて開設した。全48回開催し、利用者数は394人であった（前年度48回、403人）。

主な歳出：パソコンリース料1,121,292円、講師等謝礼319,200円

**3 上記2に対する評価**

- (1) パソコン講座を受講後、パソコンサポートセンターで復習や予習をする等、積極的にパソコンを勉強している方が増えている。
- (2) パソコンサポートセンターも同様に身近な所で相談できる利便性があり、今後はどのような需要があるかを把握し、パソコン講座につなげていけるよう検討の必要がある。

**4 今後の取組方針**

- (1) パソコン講習について
  - ・全体の受講者が減少している点について、需要の変化に応じた事業展開を目指す。
  - ・講習内容の工夫・改善及びその他講座内容を検討し、受講者数の増加を目指す。
- (2) パソコンサポートセンターについて
  - 引き続き、様々な機会をとらえPRに努める。

**5 令和元年度の目標（値）**

パソコン講習受講者数 定員の80%以上  
 パソコンサポートセンター利用者数 420人

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	生涯学習推進体制の整備		
予算額	4,115,000円	決算額	3,937,072円
<b>1 事業概要</b>			
<p>生涯学習推進体制の整備のため、次の（１）から（３）までの会議を開催し、市内の生涯学習・社会教育の現状と課題について意見を聴取した。また、（４）社会教育指導員を配置することで社会教育の特定分野の指導、学習相談及び社会教育関係団体の育成に寄与した。</p> <p>（１）桶川市生涯学習推進会議の開催  （２）社会教育委員会会議の開催  （３）社会教育関係委員合同研修会の開催  （４）社会教育指導員の設置</p>			
<b>2 事業実績</b>			
<p>（１）桶川市生涯学習推進会議の開催</p> <p>第1回 平成30年6月19日（火）  内 容：平成30年度の主な生涯学習推進事業について（報告・計画）</p> <p>第2回 平成30年11月30日（金）  内 容：桶川市生涯学習推進指針について</p> <p>（２）社会教育委員会会議の開催</p> <p>第1回 平成30年5月30日（水）  内 容：①平成29・30年度生涯学習文化財課事業について  ②平成29・30年度社会教育委員の活動について  ③平成30年度社会教育関係補助金・交付金について</p> <p>第2回 平成30年8月29日（水）  内 容：①社会教育委員会会議の取りまとめに向けて</p> <p>第3回 平成30年11月19日（月）  内 容：①社会教育委員会会議の取りまとめに向けて</p> <p>第4回 平成31年3月18日（月）  内 容：①集会所運営委員会委員、桶川市人権教育推進協議会委員の選出</p> <p>（３）社会教育関係委員合同研修会の開催</p> <p>開催日：平成31年3月18日（月）  内 容：①公民館の歴史と展望  立正大学講師による講義  ②公民館とコミュニティセンター  立正大学教授による講義  ③地域福祉と社会教育  立正大学講師による講義</p>			

#### ④まとめ（シンポジウム）

対 象：社会教育委員、公民館運営審議会委員、生涯学習推進会議委員

#### (4) 社会教育指導員の設置

社会教育の特定分野の指導、学習相談及び社会教育関係団体の育成のため、2人に委嘱した。主に、桶川市PTA連合会の事務局、平成市民大学やふれあい学級の事業を担当した。

歳出：報酬及び報償費 3,396,200 円、費用弁償 21,700 円

### 3 上記2に対する評価

#### (1) 桶川市生涯学習推進会議の開催

生涯学習推進指針(案)について審議し、意見を基に見直し、明確な指針を策定できた。

#### (2) 社会教育委員会会議の開催

「活動テーマ」について意見交換を行ない、①貧困、②防災、③スポーツ振興、④若い世代の参加 等が委員から提案された。それらのまとめとなる、社会教育委員会会議の取りまとめに向けて話を進めた。

#### (3) 社会教育関係委員合同研修会の開催

上記2つの委員と公民館運営審議会委員が共通のテーマを基に研修に参加し、生涯学習推進の方向性について情報を得ることができた。

#### (4) 社会教育指導員の設置

社会教育についての高い専門性にに基づき、小・中学校 PTA 連合会活動の支援や平成市民大学の開講、その他各種講座等を開催した。

### 4 今後の取組方針

#### (1) 桶川市生涯学習推進会議

生涯学習推進指針の進行管理・見直しについて調査・審議していく。

#### (2) 社会教育委員会会議

「社会教育の普及・振興」について審議していく。

#### (3) 社会教育関係委員合同研修会

社会教育委員、公民館運営審議会委員、生涯学習推進会議委員合同の研修会を実施し、情報交換を深めていく。

#### (4) 社会教育指導員

社会教育事業の企画・立案及び社会教育関係団体の指導・育成に務めていく。

### 5 令和元年度の目標（値）

社会教育関係委員合同研修会にて、時代の流れに即したテーマで研修を行い、参加者の満足度80%以上



施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	学習ボランティア推進事業		
予算額	13,000円	決算額	6,230円
<b>1 事業概要</b>			
学習ボランティアとして市民の学習活動を支援できる人材を「桶川み・ら・い塾一人財バンク」に登録し、活用を図った。			
<b>2 事業実績</b>			
(1) 登録状況：登録者数 57 人（前年度 53 人）、登録団体数 14 団体（同 12 団体） ※ 芸術文化、スポーツ・レクリエーション、家庭生活・趣味、教育等一般、人文・社会科学、自然科学、市民生活・国際関係などの幅広い分野に亘る。			
(2) 利用状況 ①腹話術、手品(子供) ②スポーツ吹矢体験(一般・子供) ③スポーツ吹矢体験(子供) ④手品(子供) ⑤手品(子供) の計 5 件である。※前年度 8 件			
(3) 活動の周知策として、広報紙・市ホームページへ掲載するとともに、11 の個人(7)・団体(4)が参加した「人財バンク実演・展示会」を、7月29日に大型商業施設（市民活動サポートセンター、センターコート、空店舗スペース）を会場に開催し、其々の特技・知識を市民の前で発表した。来場者数は 301 人。			
<b>3 上記 2 に対する評価</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度より利用件数は減少したが、小学生等の子供を対象とした利用件数は変わっておらず、各所団体で潜在的な需要はある。周知を広く行うことで、潜在的なニーズ解消が見込める。</li> <li>・PR の場である実演展示会は参加者からの希望もあり、大型商業施設で実施したことにより、目に見えた集客があった。</li> </ul>			
<b>4 今後の取組方針</b>			
桶川み・ら・い塾一人財バンク利用システムを市民へ広く周知するため、引き続き「人財バンク実演・展示会」を、大型商業施設を会場にして開催し、来場者数を増やすため、広報・ホームページのほかに、チラシ配布・ポスター掲示を参加する個人・団体と商業施設にも協力してもらう。			
<b>5 令和元年度の目標（値）</b>			
利用件数 10 件以上			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	人権教育・啓発と平和の推進（205）		
基本事業	人権教育の推進（2051）		
事 業 名	人権教育の推進		
予 算 額	4,296,000 円	決 算 額	4,093,390 円

**1 事業概要**

桶川市人権教育基本方針の趣旨に基づき、社会教育、生涯学習の観点から市民の人権感覚の向上を目指し、人権教育の啓発と推進を行った。

**2 事業実績**

(1) 桶川市人権教育推進協議会

① 協議会

第1回 開催日：平成30年6月7日（木）

内 容：平成29年度事業報告及び平成30年度事業計画 等

第2回 開催日：平成31年2月6日（水）

内 容：平成30年度事業報告及び平成31年度事業計画案 等

② 研修会

・人権教育・啓発講演会

開催日：平成31年1月25日（金） 桶川東公民館

内 容：「スクール・セクシュアル・ハラスメントを防ぐために」

講 師：特定非営利活動法人

スクール・セクシュアル・ハラスメント防止関東ネットワーク

入江 直子氏・賀谷 恵美子氏

参加者数：78人（前年度99人）

・企業等対象人権問題研修会

開催日：平成30年7年12日（木） 桶川東公民館

内 容：「企業における人権～職場の人権啓発活動～」

講 師：富士電機機器制御（株）小澤 靖彦氏

参加者数：21人（前年度15人）

(2) 桶川市立集会所事業

① 成人学級講座（カッコ内は前年度）

回	内容および講師	桶川集会所	加納集会所	参加者
1	「認知症について（DVD視聴）」	5/18(金)		86人
2	「子供の人権」（講演）	7/6(金)		46人
3	「障害者の人権」（講演）	8/31(金)		88人
4	「高齢者の人権」（講演）	10/19(金)		43人
5	「女性の人権」（DVD視聴）	11/16(金)		80人
6	「部落差別問題」（DVD視聴）	2/8(金)		86人
合 計		429人（487）		

② 文化講座を次表のとおり実施した。(カッコ内は前年度)

集会所	教室名	受講者数	参加延べ人数
加 納	書道教室	18 人	374 人(384)
	編み物教室	23 人	463 人(495)
桶 川	書道教室	20 人	423 人(504)
	デコパージュ教室	18 人	377 人(258)

③ 夏休み子ども教室については、人権アニメの視聴、折り紙教室、習字教室を実施し、延べ参加人数は 43 人（前年度 66 人）であった。参加者の平均満足度は、両集会所とも 3.6 点(最高 4 点)だった。

④ 集会所文化講座作品展

日時・会場：平成 30 年 12 月 8 日(土) 桶川集会所

展示作品：書道、編物、デコパージュ作品 98 点 (86 点)

来場者数：62 人 (前年度 69 人)

○集会所事業主要経費

項 目	経 費
文化講座講師謝礼	614,400 円
集会所光熱水費	659,994 円
集会所管理委託	1,474,099 円
集会所清掃委託	489,996 円
合 計	3,238,489 円

### 3 上記 2 に対する評価

- (1) 企業等対象人権問題研修会については参加企業が少ないため、引続き事前に企業訪問を行い、説明・啓発を図る必要がある。
- (2) 成人学級については、ある程度の出席率を保持しており、満足度は平均して 90% 程であるため、今後も研修内容の充実を図っていく必要がある。
- (3) 文化講座及び夏休み子ども教室については、より多くの参加を促すため、市内各小学校の夏季休業中の行事日程の確認や日程調整等を行う必要がある。広報誌掲載及び学校を通しての募集活動を行う。

### 4 今後の取組方針

- ・桶川市人権教育推進協議会、集会所事業ともに事業内容の大幅な変更はないが、様々な人権課題の早期解決を目指し、市民の人権感覚の向上への推進役として両事業に関わる人々の意識を高めていく。
- ・企業等人権問題研修会については、今日的な課題について意欲的に実践が図れる講師選定、企業への声掛け強化、実施時期の再検討を行い、参加企業の増加を目指す。また、市内不動産業者の参加に向け、直接事業所を訪問して周知を行う。

## 5 令和元年度の目標（値）

- ①研修会 人権教育・啓発講演会 100人、企業等対象人権問題研修会 25人
- ②成人学級 延べ参加者 500人、満足度調査（85%以上）
- ③夏休み子ども教室 参加児童の満足度調査（85%以上）

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	指定文化財保存管理交付金及び文化財保存事業費補助金交付事業		
予算額	336,000円	決算額	329,846円

### 1 事業概要

市内に所在する個人所有の指定文化財の適切な保存を図るため、その管理者に対して当該文化財の管理又は維持に要する経費に対して「桶川市指定文化財保存管理交付金交付要綱」に基づき交付金を交付した。また、修繕等の経費に対して「桶川市文化財保存事業費補助金交付要綱」に基づき補助金を交付した。

### 2 事業実績

#### (1) 桶川市指定文化財保存管理交付金

文化財の指定区分に従い、以下のとおり交付金を交付した。

国指定文化財 10,000円×1件＝10,000円

県指定文化財 7,500円×5件＝37,500円

市指定文化財 5,000円×23件＝115,000円

合 計 162,500円

区 分	件数	種別	種類	名 称
国指定文化財	1	有形	彫刻	木造阿弥陀如来坐像（泉福寺）
県指定文化財	1	有形	建造物	桶川宿本陣遺構
	2	記念物	史跡	熊野神社古墳
	3	記念物	天然記念物	倉田の大カヤ（明星院）
	4	記念物	天然記念物	光照寺コウヤマキ
	5	旧跡	旧跡	梵語学者盛典の墓（知足院）
市指定文化財	1	有形	建造物	諏訪神社本殿
	2	有形	建造物	泉福寺山門並びに石造仁王像一棟二軀
	3	有形	建造物	矢部家住宅
	4	有形	工芸品	泉福寺の銅製釣灯籠
	5	有形	歴史資料	天満神社の木製の額(氷川天満神社)
	6	有形	古文書	旧小針領家村松川家文書
	7	有形	古文書	旧五町台村渋谷家文書
	8	有形	古文書	旧倉田村荒井家文書
	9	有形	古文書	旧倉田村明星院領星野家文書
	10	有形	歴史資料	紅花商人寄進の石燈籠二基
	11	民俗	有形民俗	稻荷神社の力石
	12	有形	歴史資料	川辺の板石塔婆
	13	民俗	有形民俗	天神道の道しるべ
	14	民俗	有形民俗	樋詰の道しるべ
	15	民俗	有形民俗	名号塔兼ねた道しるべ

16	民俗	有形民俗	小針領家のささら獅子舞用具一式
17	記念物	史跡	木戸跡（下）
18	記念物	史跡	木戸跡（上）
19	記念物	史跡	加納城址
20	記念物	天然記念物	シイガン
21	記念物	天然記念物	多気比売神社の大シイ
22	記念物	天然記念物	ムクロジ
23	記念物	天然記念物	普門寺のしだれ桜

## (2) 桶川市文化財保存事業費補助金

補助金交付要綱に従い、以下のとおり補助金を交付した。

[交付対象文化財]

害虫駆除 総事業費 35,640 円、補助率 1/2、補助金額 17,820 円

区分	件数	種別	種類	名称
市指定文化財	1	記念物	天然記念物	シイガン

屋根修繕工事 総事業費 110,052 円、補助率 1/2、補助金額 55,026 円

区分	件数	種別	種類	名称
市指定文化財	1	有形	建造物	矢部家住宅

用具（獅子太鼓）の修理 総事業費 189,000 円、補助率 1/2、補助金額 94,500 円

区分	件数	種別	種類	名称
市指定文化財	1	民俗	有形民俗	小針領家ささら獅子舞用具

※29年度は2件：2,248,560円、28年度は6件：1,218,778円

## 3 上記2に対する評価

- (1) 交付金交付事業を通して、文化財保護と保存についての意識啓発を図るとともに、所有者の協力を得て、指定文化財を適切に管理することができた。
- (2) 補助金交付事業により貴重な文化財の補修を行うことで、今後の文化財の保存と継承について寄与することができた。

## 4 今後の取組方針

- (1) 交付金交付事業については、現在指定されている文化財への交付金を継続して交付する。また、新たに文化財が指定されるごとに対応していく。
- (2) 補助金交付事業については、所有者及び管理者に対し、引き続き制度の周知を図ると共に、職員による定期的な文化財の現状確認を行うことで、所有者との連携を深め、計画的な文化財の修理・保存につなげていく。

## 5 令和元年度の目標（値）

- (1) 交付金交付事業について、継続して、交付対象である全29件に対し交付を行う。
- (2) 補助金交付事業について、事前相談のあった4件に対し、交付を行う。また、所有者及び管理者に制度の周知を図り、必要に応じて聞き取りを行うなど、修繕等が必要な文化財の把握を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	民俗芸能保存事業交付金交付事業		
予算額	570,000円	決算額	570,000円

### 1 事業概要

伝統的な民俗芸能の伝承団体に対して、その保存伝承及び後継者育成に要する経費に充てるため、「桶川市民俗芸能保存事業交付金交付要綱」に基づき交付金を交付した。

### 2 事業実績

交付金額 30,000円×19団体＝570,000円

[交付対象民俗芸能及び伝承団体]

No.	芸能の名称	団体の名称
1	岡村の囃子	岡村囃子連
2	岡村の万作	岡村万作保存会
3	加納の餅つき踊り	加納餅つき踊り保存会
4	上日出谷の囃子	上日出谷青年会
5	倉田の囃子	桶川市倉田祭囃子保存会
6	桶川市子どもばやし	桶川市本街子ども囃子保存会
7	小針領家ささら獅子舞	小針領家獅子舞保存会
8	下日出谷の囃子	下日出谷囃子連
9	下日出谷の餅つき踊り	下日出谷餅搗踊り保存会
10	下日出谷の万作	下日出谷万作踊り保存会
11	諏訪の万作	諏訪万作保存会
12	前領家のささら獅子舞	前領家ささら獅子舞保存会
13	松原のささら獅子舞	松原ささら獅子舞保存会
14	松原の真言	松原真言保存会
15	松原の万作	松原万作保存会
16	三田原のささら獅子舞	三田原ささら獅子舞保存会
17	三田原の万作	三田原万作連
18	夫婦獅子舞・囃子	武州桶川宿本街保存会
19	薬師堂の囃子	薬師堂囃子連

### 3 上記2に対する評価

交付金を通して、民俗芸能団体の活動に対する支援や後継者育成等に寄与することができた。また、各地域の祭礼等に参加することで、各民俗芸能団体の活動記録を取ると同時に、実際に活動されている方の意見なども聞くことができた。

### 4 今後の取組方針

民俗芸能に関する情報を収集していき、交付金の交付を始め、県や民間の助成金の情報提供及び民俗芸能団体が活動できる場の提供など、広く支援活動を行う。また、活動の継続が難しくなっている団体や活動を再開した団体があれば、随時対応をしていく。

## 5 令和元年度の目標（値）

引き続き交付対象である 19 団体に対し、交付を行う。また、民俗芸能調査として、地域の祭礼等に積極的に参加し、民俗芸能団体の活動記録を取ると共に、各団体の抱える問題点などを伺う機会とする。



施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	後谷遺跡出土品保存処理事業		
予算額	5,100,000円	決算額	4,995,000円
<b>1 事業概要</b>			
国指定重要文化財の後谷遺跡出土品について、適切な保存管理・活用を行い、将来へ引き継いでいくことを目的に必要な保存修理を実施した。（国庫補助事業）			
<b>2 事業実績</b>			
<p>(1) 保存修理は、漆製品、木製品、土製品等の出土品の内、脆弱な物や修復が必要な物に対して行い、平成30年度は、土器13点、土製品3点について実施した。また、業務委託先に訪問して、文化庁職員の立会いのもと、着実に作業が行われているかの確認を行った。</p> <p>(2) より良好な保存状態を確保するため、保存処理した10点については、保存する専用の保存箱を作製した。</p>			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
<p>(1) 土器及び土製品16点について保存修理を実施し、内10点については保存箱・保存台の作製を実施することで、劣化の進行や損傷を防ぎ、重要文化財の適切な保存管理と継承ができるようになった。</p> <p>(2) 保存修理により、良好な状態での公開や活用の機会を増やすことにつながり、歴史民俗資料館の常設展示にて公開を行った。また、昨夏に東京国立博物館にて開催された特別展「縄文」に「みみずく土偶」1点と「赤漆塗櫛」2点が出品され、「みみずく土偶」については、引き続きパリで開催された日仏友好160周年記念事業「ジャポニスム2018」に出品され、国内外の人々が当市の文化財に接する機会の拡大を創出した。</p>			
<b>4 今後の取組方針</b>			
<p>(1) 平成24年度から平成30年度までの7ヵ年計画により、出土品645点の内修理を必要とする280点（漆製品13点、土偶2点、木器・木製品52点、土器・土製品213点）に対して保存修理を実施したが、文化庁との協議に基づき、更に2ヵ年延長して実施する。</p> <p>(2) 保存修理の終了したものについては、歴史民俗資料館に収蔵し、特別展示等の一般公開の機会を創出する。</p>			
<b>5 令和元年度の目標（値）</b>			
土器13点、土製品2点の保存修理及び保存台の作製を実施する。また、修理が済んだ出土品については、可能な限り歴史民俗資料館の展示、市外の博物館などに貸し出すことにより、その活用及び周知を図る。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事 業 名	指定文化財調査事業		
予 算 額	77,000 円	決 算 額	49,630 円
<b>1 事業概要</b>	新たな文化財指定の可否等を行なうため、指定文化財候補の調査を実施した。		
<b>2 事業実績</b>	<p>(1) 南一丁目地内の「浄念寺聖徳太子立像」について、文化財調査の結果報告を行ったが、時代背景や造立事情が不詳のため、引き続き、情報収集を行うこととした。</p> <p>(2) 大字川田谷地内の「川田谷字稲荷地内稲荷社」について、文化財保護審議会委員と文化財調査を実施した。</p> <p>(3) 寿2丁目地内の「島村老茶舗」について、文化庁調査官及び文化財保護審議会委員と国登録有形文化財に向けての文化財調査を実施した。その後、国の文化審議会に諮問するための意見具申書を令和元年6月に提出することとなった。</p>		
<b>3 上記2に対する評価</b>	文化財調査を実施することにより、文化財に関する貴重な情報を得ることができた。		
<b>4 今後の取組方針</b>	歴史民俗資料館に一部保管されている地租改正地引絵図など、調査済の文化財に対して、文化財指定について検討する。また、指定候補となっている文化財の再検討や調査を実施すると共に、新たな指定候補文化財の発見、情報収集に努める。		
<b>5 令和元年度の目標（値）</b>	<p>「浄念寺聖徳太子立像」について、引き続き、情報収集を行う。</p> <p>また、「川田谷字稲荷地内稲荷社」について、引き続き資料収集等を実施し、より詳細な文化財調査を行う。</p> <p>将来の指定文化財候補の調査及び指定への検討を行うと共に新たに指定候補になり得る文化財の発見及び情報収集を行う。</p>		

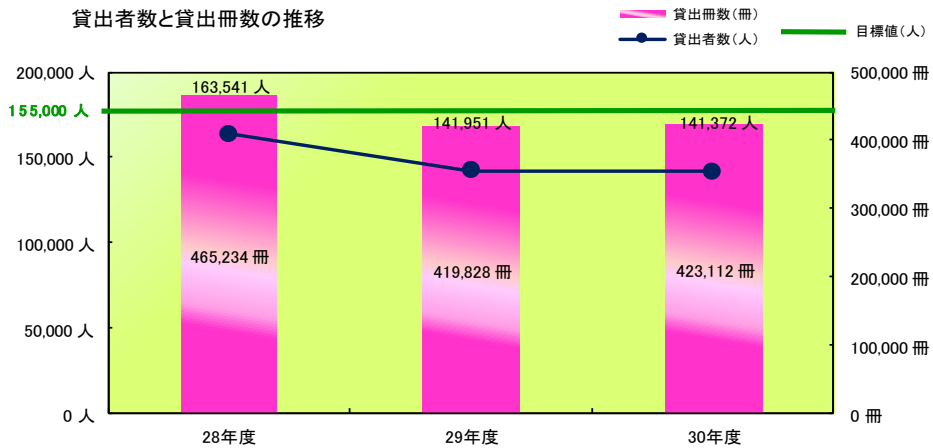
施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	管理運営経費		
予算額	140,463,000円	決算額	138,140,738円

1 事業概要

図書館サービスの充実を図るため、図書館の維持管理業務を行った。

2 事業実績

(1) 貸出者数、貸出冊数の推移



(2) OKEGAWA honプラス+イベントスペースにおいて、イベントを61回開催（延べ95回）参加人数延べ 2,062人

3 上記2に対する評価

(1) 市立図書館は、前年度より貸出者数が11,494人増、貸出冊数が34,704冊増。駅西口図書館は、貸出者数が10,502人減、貸出冊数が26,130冊減。川田谷分室は、貸出者数が1,571人減、貸出冊数が5,290冊減。全体で昨年と比較すると、貸出冊数は伸びたものの、貸出者数が若干減少となった。

【貸出者数】

	市立	駅西口	川田谷	合計
開館日数	279日	359日	279日	1,196日
平成29年度	3,547人	133,404人	5,000人	141,951人
平成30年度	15,041人	122,902人	3,429人	141,372人
増減	11,494人	△10,502人	△1,571人	△579人

【貸出冊数】

	市立	駅西口	川田谷	合計
平成29年度	10,851冊	390,557冊	18,420冊	419,828冊
平成30年度	45,555冊	364,427冊	13,130冊	423,112冊
増減	34,704冊	△26,130冊	△5,290冊	3,284冊

(2) O K E G A W A h o n プラス+イベントスペースを利用した官民連携の文化交流事業を実施し、生涯学習の場、多世代交流の場を提供した。述べ参加人数が前年度より減少となったが、連続講座「埼玉の川を知る」などの企画を開催し、図書館事業の充実を図った。

#### 4 今後の取組方針

- (1) 平成 31 年 4 月より、全館が指定管理となり、円滑に業務が進められるようにする。 ※ 平成 31 年度より図書館名の変更及び新館オープン  
・中央図書館、桶川図書館、川田谷図書館、坂田図書館（新館）
- (2) 指定管理による自主事業の開催の充実を図る。

#### 5 令和元年度の目標（値）

- ① 図書館貸出者数 155,000 人  
（中央図書館：120,000 人、桶川図書館：15,000 人、川田谷図書館：3,000 人、坂田図書館：17,000 人）
- ② 利用者アンケートの総合的な満足度 80%以上を目指す。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	図書館業務推進事業		
予算額	39,529,000円	決算額	38,255,577円
<b>1 事業概要</b>			
図書館資料を購入し、幅広い年齢層を対象に事業を実施した。			
<b>2 事業実績</b>			
(1) 図書館資料の購入			
	購入冊数	(前年比較)	購入金額
図書館資料	14,865冊	増8,048冊	11,460,312円
			(前年比較)
			減411,010円
	その他資料（地図・法令集等）購入金額 34,992円		
	(2) セカンドブック事業の実施 実施人数 618人 金額 890,455円		
	(3) 音訳者養成講座（中級）の開催 参加者 9人		
	(4) おはなし会：実施回数 90回 参加者 児童670人 大人404人		
	対面朗読：実施回数 45回 参加者 45人		
	(5) ボランティアとの協働事業		
	「子供への読み聞かせの指導・読み聞かせの実践」		
	参加児童 読み手 12人 聞き手 26人 ボランティア（指導） 13人		
<b>3 上記2に対する評価</b>			
(1) 14,865冊の資料を購入し、蔵書を更新した。全体で14,629冊の図書館資料を除籍し、うち比較的程度の良い本3,049冊をリサイクル本として利用者に提供した。			
(2) 小学1年生を対象に本を1冊プレゼントするセカンドブック事業を継続実施し、本に親しむきっかけ作りを支援した。			
(3) 視覚に障がいがある方、読書に支障がある方に対して、対面朗読、録音資料を制作する音訳者養成中級講座を実施し、レベルアップに繋がった。			
(4) 及び(5) ボランティア団体の協力や支援により事業を実施し、こどもへの読み聞かせや視覚に障がいのある方への対面朗読が実施できた。			
<b>4 今後の取組方針</b>			
(1) 坂田図書館に所蔵する本の充実を図る。			
(2) 学校と連携して小学1年生を対象に「セカンドブック事業」を実施し、本に親しむきっかけ作りを支援する。			
(3) 音訳者養成講座（中級続き）を実施し、対面朗読、録音資料の録音ボランティアの充実を図る。			
(4) 「読書アルバム」を小学生以下対象に、希望者に対して図書館にて配布する。小学1年生は学校に依頼し、全員配布する。			
(5) より良い図書館運営を進めるために、ボランティアとの協働をさらに充実させる。			

## 5 令和元年度の目標（値）

①図書館貸出者数 155,000 人

（中央図書館：120,000 人、桶川図書館：15,000 人、川田谷図書館：3,000 人、  
坂田図書館：17,000 人）

②図書充足率

埼玉県平均を上回る。

平成 29 年度実績（人口 1 人当たり）

埼玉県平均 3.16 冊

本市 2.92 冊

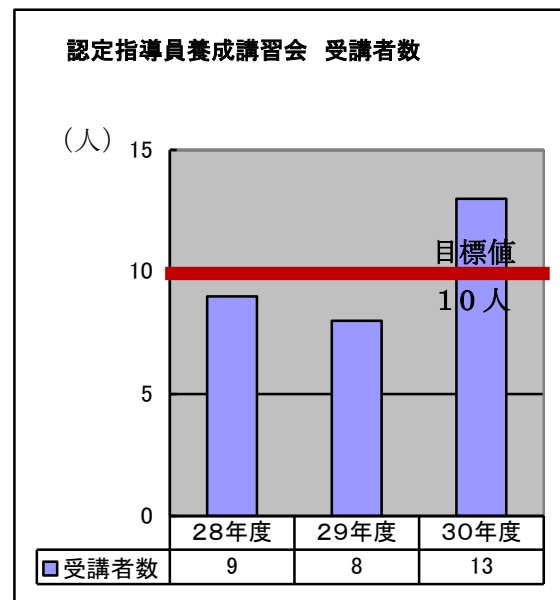
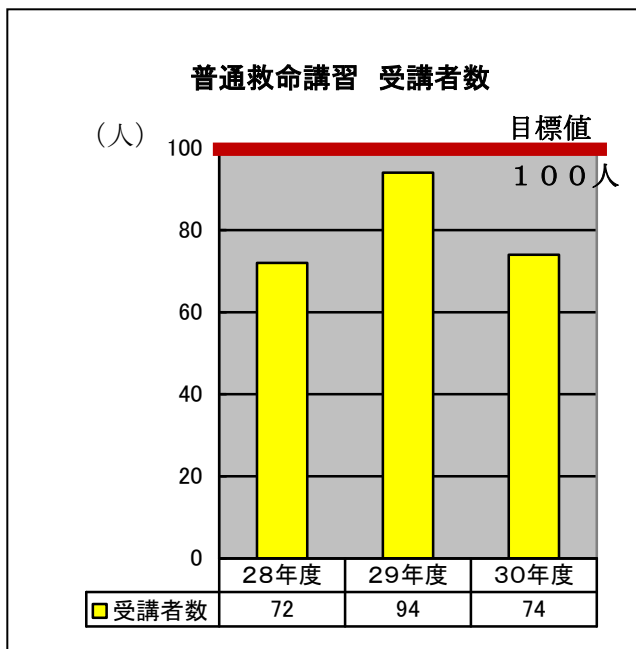
施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	スポーツ指導者育成事業		
予算額	2,583,000円	決算額	2,364,900円

**1 事業概要**

市民の健康増進に寄与する、スポーツ指導者の育成支援を行った。

**2 事業実績**

- (1) スポーツ推進委員やスポーツ少年団、体育協会に情報提供を行い、その活動を支援した。＜報酬：2,046,500円、費用弁償：318,400円＞
- (2) スポーツ推進委員及び体育協会加盟団体、スポーツ少年団の指導者、学校施設開放利用団体を対象に「普通救命講習」を実施した。（受講者：74人）
- (3) 認定指導員の養成



**3 上記2に対する評価**

- (1) 各種研修会に多くのスポーツ指導者が積極的に参加した。特にスポーツ少年団は認定指導員養成講習会へ積極的に参加し、新たに13人が指導者となった。
- (2) 各団体において「普通救命講習」を実施し、AEDの取り扱いや応急手当について知識を深めたことにより、指導者の資質の向上が図れた。

**4 今後の取組方針**

- (1) スポーツ指導者の育成や支援を継続していく。
- (2) 普通救命講習をスポーツ推進委員、スポーツ協会加盟団体及びスポーツ少年団、学校体育施設開放利用団体に継続的に実施する。  
また、過去に受講された方にも再度受講を促し、資質の向上を図る。
- (3) スポーツ指導者を対象とした研修を実施し、指導者としての資質の向上を図る。

**5 令和元年度の目標（値）**

普通救命講習受講者数 100名 認定指導員養成講習会受講者数 15名

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	活動団体支援の充実（2044）		
事業名	スポーツ団体への支援事業		
予算額	5,840,000円	決算額	5,837,039円

1 事業概要

生涯スポーツの普及及び更なる推進を図るため、各種団体に対し支援を行った。

2 事業実績

(1) スポーツ団体等の支援・育成のため、以下のとおり補助金を交付した。

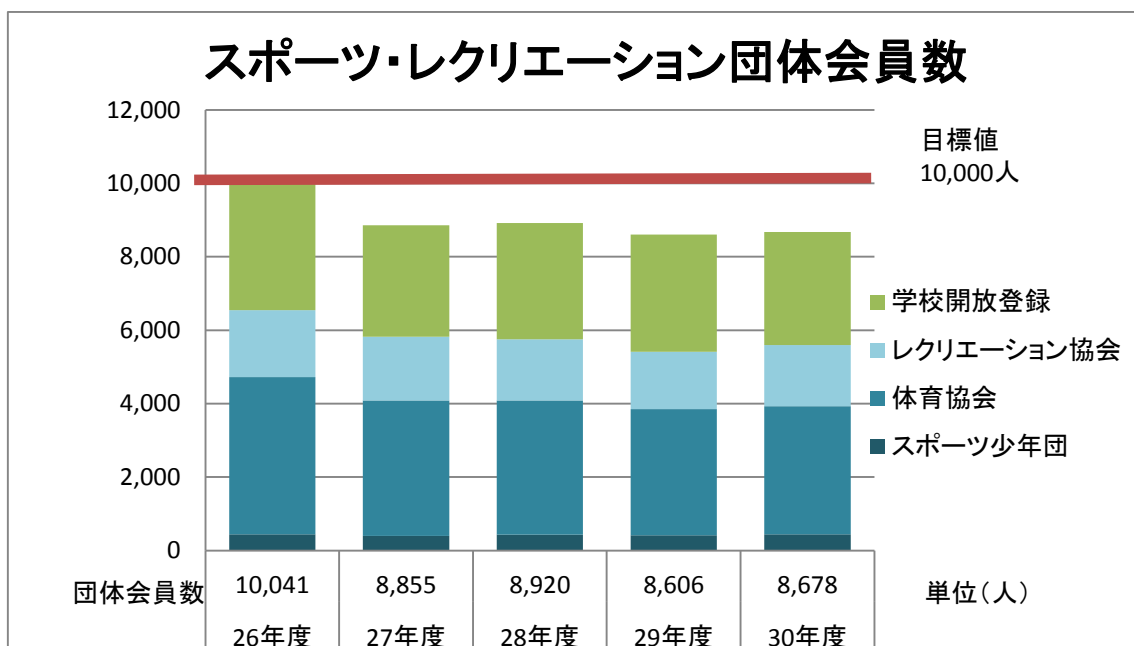
件 名	金 額
桶川市体育協会補助金	1,600,000円
桶川市スポーツ少年団補助金	560,000円
桶川市レクリエーション協会補助金	240,000円
桶川市スポーツ推進委員連絡協議会補助金	240,000円

(2) スポーツの振興を図るためのイベントを実行委員会形式で実施した。

件 名	金 額
地区別体育祭運営交付金	2,397,039円
スポーツフェスティバル交付金	400,000円
おけがわ駅伝競走大会交付金	400,000円

(3) スポーツ・レクリエーション団体会員数の推移

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
会員数	8,920人	8,606人	8,678人





### 3 上記2に対する評価

各スポーツ・レクリエーション関係団体に補助金を交付することなどにより、活動を支援し、生涯スポーツの普及・促進に寄与することができた。

- (1) 桶川市体育協会、桶川市スポーツ少年団及び桶川市レクリエーション協会などの団体の協力により、子供から大人までの幅広い世代の生涯スポーツの普及・推進を図ることができた。また、スポーツ推進委員は、様々な行事、事業で活動を行い、桶川市のスポーツ・レクリエーションの振興に貢献した。
- (2) 11年目を迎えた地区別体育祭は、各地区に対して助成した結果、各地区実行委員会が中心となって地域の特色を生かした体育祭が開催された。
- (3) 各種イベントを実施することにより、スポーツ・レクリエーションの普及、推進に資するとともに、スポーツ少年団などの関係団体の活動を支援した。
- (4) スポーツ・レクリエーション団体会員数は微増で、目標値の10,000人に届かなかったことから、更なる会員数の増加に繋がるような取組みが必要である。

### 4 今後の取組方針

- (1) 各種活動団体に対する支援並びにイベントを通じて、多世代間の交流を行い、生涯スポーツの普及・推進を図り、スポーツ・レクリエーション団体会員数の増加及び活動の充実を目指す。
- (2) 学校開放備品の充実、メンテナンスを行い、スポーツ・レクリエーション団体が活動しやすい環境を作り、会員数の増加を目指す。
- (3) 日体大や西武ライオンズとの相互連携協定に基づき、スポーツ教室や研修会への教職員や学生の派遣により、生涯スポーツの普及・推進に繋げる。  
なお、日体大との連携事業としては、「ウォーキング教室」をはじめ、「スポーツフェスティバル」などのイベントでの連携を推進する。

### 5 令和元年度の目標（値）

スポーツ・レクリエーション団体会員数 10,000 人

※内訳（スポーツ協会 4,043 人、スポーツ少年団 511 人、レクリエーション協会 1,934 人、学校開放団体 3,512 人）

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	施設の充実（2045）		
事業名	スポーツ施設維持管理事業		
予算額	85,165,000円	決算額	84,998,398円

**1 事業概要**

スポーツ関連施設の適切な維持管理を行い、生涯スポーツの普及、推進を図った。

**2 事業実績**

(1) 体育施設の管理<施設管理委託 68,192,000円ほか>

サン・アリーナ、舎人スポーツ・パーク、新小針領家グラウンド、総合運動場の体育施設について、その管理、受付業務、利用料金収納業務等を指定管理者である（公財）桶川市施設管理公社に委託した。また、体育施設の維持改善に努めた。

<平成30年度の利用状況>

区 分	利用人数
サン・アリーナ	249,711人
舎人スポーツ・パーク	11,291人
新小針領家グラウンドA	3,589人
新小針領家グラウンドB	5,560人
総合運動場	21,812人

(2) 学校体育施設開放事業<AED借上料：302,436円、夜間照明維持管理 396,020円ほか>

すべての小・中学校において、学校体育施設開放事業として、施設が開放されており市民のスポーツ活動の拠点として利用されている。

例年に引き続き、施設の維持管理に努めており、施設の利用状況も次のとおりであった。

<平成30年度の登録状況>

区 分	団体数	利用人数
小中学校施設利用団体	133団体	2,811人
夜間照明施設利用団体	8団体	272人

(3) 総合運動場改修工事<工事請負費 13,964,400円>

駐車場の増設及びグラウンド面の表土の入れ替えを行った。

**3 上記2に対する評価**

(1) 既存の施設については、指定管理者である（公財）桶川市施設管理公社による備品の更新や必要に応じた補修及び点検等により、良好な維持管理をした結果、利用人数の維持に繋がった。

(2) 駐車場の増設やグラウンド面の表土の入れ替えなどを実施し、総合運動場の環境改善を実施したことで、利用者の利便性の向上に繋がった。

(3) 指定管理者が行った「桶川サン・アリーナ」の利用者アンケート調査の結果として、84%の利用者から、「満足」という回答があった。

#### 4 今後の取組方針

- ・ 既存の施設について、備品の更新、施設の補修、点検等を行う。
- ・ 総合運動場の環境を改善する改修事業を継続する。

#### 5 令和元年度の目標（値）

- ・ 各運動施設の利用環境を良好な状態に維持する。
- ・ 総合グラウンド構想に基づき、既存の屋外体育施設である総合運動場の環境改善に繋がる改修事業を実施する。

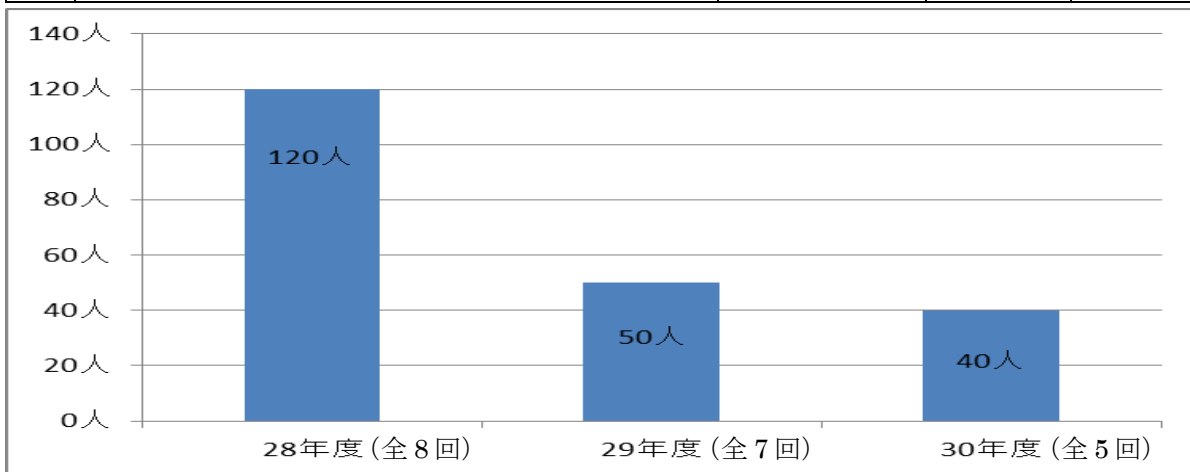
施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	幼児・家庭教育セミナー事業		
予算額	122,000円	決算額	106,580円

### 1 事業概要

幼児・小学生をもつ親を対象に「幼児教育」「家庭教育」について学び、活かすことができる講座を5回開催した。

### 2 事業実績

回	講座名	実施日	定員	参加人数
1	子どもの良さを引き出し、伸ばす子育て	5/30	20	5
2	バランスボール	6/13	15	13
3	祖父母力アップ！孫育講座	6/27	15組	5
4	ストレッチとヨガでリフレッシュ	10/31	20	9
5	子どもの心に届くほめ方・叱り方	1/30	20	8
				40



### 3 上記2に対する評価

平成25年度をピーク（214人）に減少傾向が続いていたことから、29年度に前期・後期制を導入したが歯止めが掛からなかった。このことから、今年度より各回募集とした結果、1回あたりの参加者は微増となった。

### 4 今後の取組方針

子育て世代のニーズ把握を引き続き行い、参加者数及び満足度の向上を図るとともにセミナー実施の目的である「健全な家庭を築くとともに、健やかな子育てができる親の育成」を目指す。また、PR方法の検討、試行を参加者数の増加につなげる。

なお、本事業はセミナー方式を特徴とし、少人数でも開講する。このことが参加者同士あるいは講師とのコミュニケーションのとりやすさにつながっているものと思われ、実施後アンケートの結果では満足度が高い。しかしながら、社会情勢やニーズの変化に伴い、事業自体の見直しや目標値の再設定、他機関への移行などが課題となっている。

### 5 令和元年度の目標（値）

参加者数の2割増（各回10人×全5回）

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	講座開催事業		
予算額	1,170,000円	決算額	1,162,301円

**1 事業概要**

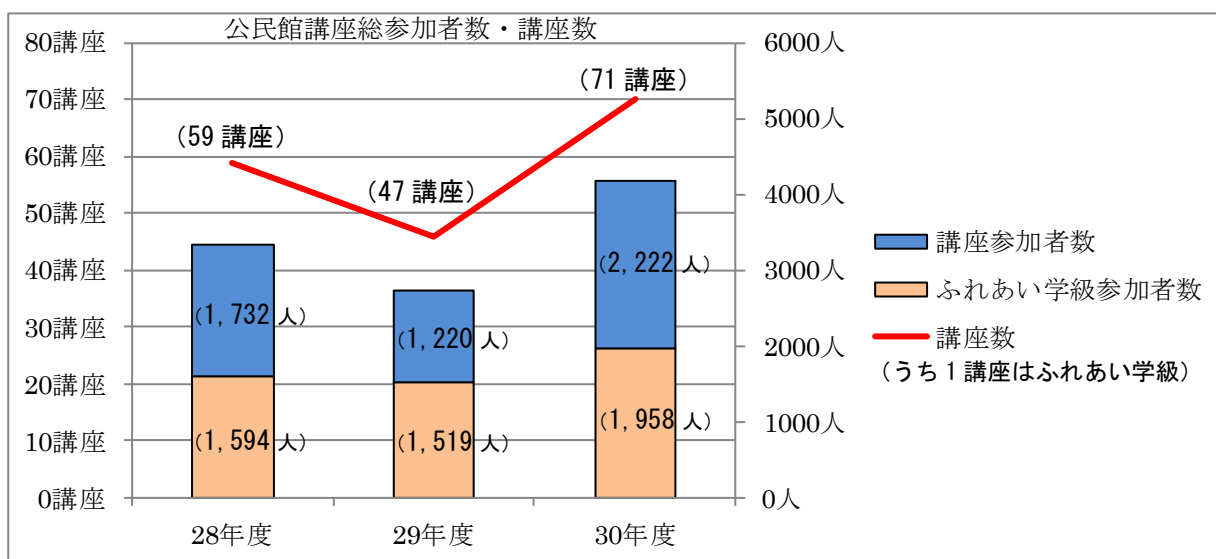
学習意欲のある市民の多様なニーズを捉え、様々な機会に、時代に即した質の高い講座を提供した。

**2 事業実績**

世代間交流、高齢者、子育て支援などをテーマとした講座を4館合計で71講座（70講座＋ふれあい学級）を開催した。

夏休み期間中に実施してきた「夏休み子どもワールド」に加え、今年度はクリスマス期間中にも全館同一テーマで集中的に講座を開催した。

サークルの方を講師とする講座や講師を養成する講座「笑来楽習」なども実施した。



**3 上記2に対する評価**

2年ぶりに全4館での事業実施となったことから、目標値（55講座）を上回る71講座を開催し、受講者は4,180人を数えた。また、講座終了後には、新たにサークルを4団体結成することができた。

**4 今後の取組方針**

- ・公民館の設置目的として、自己表現、自己実現、地域課題解決等のために引き続き講座を開催する。
- ・世代間、地域間の交流を図るサークル活動を支援する。

**5 令和元年度の目標（値）**

- ・目標値（55講座）達成と満足度の向上（講座修了後アンケート等による）
- ・新規サークル4団体の結成。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	公民館業務運営事業		
予算額	15,510,000円	決算額	13,785,657円

**1 事業概要**

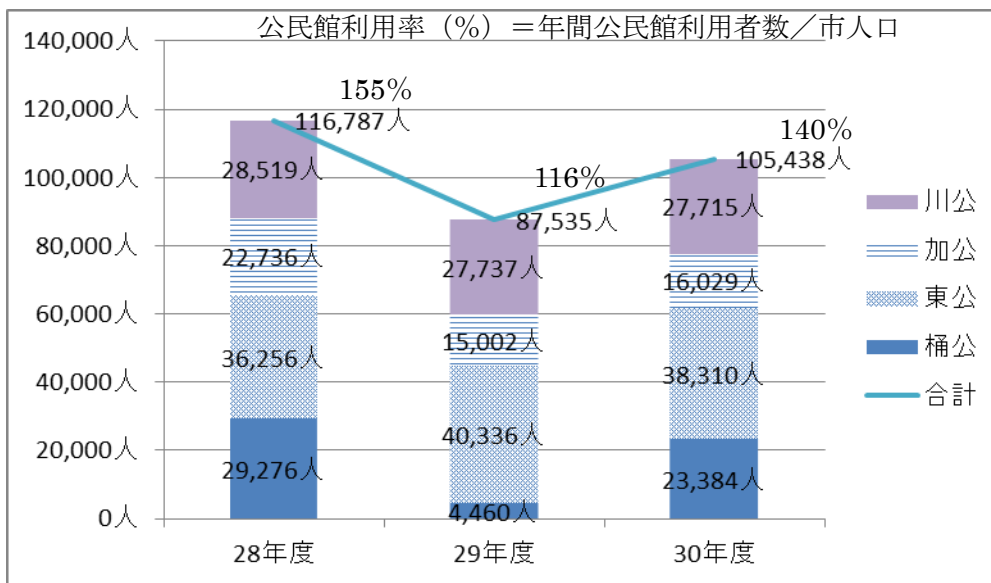
市民に社会教育活動の場を提供するために必要な公民館施設の管理運営を行った。

**2 事業実績**

(1) 非常勤公民館長の任命と公民館運営審議会委員の委嘱

公民館業務の企画立案の指導・助言、施設の管理等を行うため、非常勤公民館長を任命した。また、有識者や利用者などの意見聴取の場となる公民館運営審議会の委員を委嘱、30年度は、社会教育委員、生涯学習推進会議委員との合同研修において大学より講師を招き、社会教育を取り巻く近年の状況等について集中的な講義を行った。

(2) 公民館利用状況



各部屋の利用状況に基づく利用率の推移は上図の通りであるが、このほか 30年度は他機関とのコラボレーション企画として、クリスマスおはなし会（図書館）、ひなまつりスタンプラリー（公民館4館＋中山道宿場館＋べに花ふるさと館で計834人）を開催した。

**3 上記2に対する評価**

(1) 講座等の企画・実施に際し、有識者らからの多様な意見が指針、参考となった。

(2) 公民館利用率（年間公民館利用者数/市人口）は、29年度の大規模改修工事を経て30年度より通常通り4館による運営を行った結果、140%に回復することができた。

#### 4 今後の取組方針

- ・会計年度任用職員制度が始まることから、体制のスムーズな移行を目指す。
- ・人口増加が横ばいの中、サークルでは高齢化が進み、利用率の減少傾向が認められる。また、指定管理者によるコミュニティセンターが平成 31 年 4 月に坂田地区にオープンした。このような状況を踏まえ、「公民館利用の手引き」の運用による利用率の向上を目指す。
- ・指定管理制度が図書館においても始まるなど、社会教育を取り巻く環境も変化している中で、他機関とも連携を図り、多様な市民ニーズに応じていく。

#### 5 令和元年度の目標（値）

公民館利用率 150%（113,000 人）

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実 (204)		
基本事業	施設の充実 (2045)		
事業名	生涯学習センター管理事業		
予算額	27,468,000円	決算額	27,354,492円
<b>1 事業概要</b>			
生涯学習実践の拠点施設として、生涯学習センターを構成する歴史民俗資料館及び川田谷公民館、川田谷図書館が健全に機能を発揮し、市民の学習の場を提供できるよう、施設の維持管理を行った。			
<b>2 事業実績</b>			
(1) 生涯学習センター共通			
利用者の安全及び施設利用環境の改善に関わる事業として、主に以下の事業を実施した。			
ア	設備保守委託	15,234,480円	
イ	建築設備定期調査報告等業務委託	162,000円	
ウ	施設修繕料		
	非常用放送設備修繕	896,400円	
	男子トイレ小便器センサー修繕	228,960円	
	清掃員控室エアコン更新修繕	194,400円	
(2) 川田谷公民館			
ア	施設修繕料		
	アートスペース陶芸窯修繕	534,600円	
	スポーツホールスポットライト器具及び視聴覚ホール蛍光管交換修繕		
			219,780円
<b>3 上記2に対する評価</b>			
(1) によって、施設利用者の安全管理や利用にかかわる施設の改善を図ることができた。			
(2) によって、川田谷公民館の利用環境の改善を行うことができた。			
<b>4 今後の取組方針</b>			
施設の現状や課題、令和3年度に予定されている生涯学習センターの大規模改修工事との整合性を図りながら、修繕を計画的に進めていく。			
<b>5 令和元年度の目標(値)</b>			
(1) 施設の点検を定期的実施する中で、各施設の現状の課題改善に取り組む。			
(2) 川田谷生涯学習センターの大規模改修工事の設計に向けて、各機関や関係課との連携を図りながら、計画的に改修工事に向けての準備を進める。			



施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承 (206) 生涯学習・生涯スポーツの充実 (204)		
基本事業	文化財の保存と継承 (2064)		
事業名	資料調査・収蔵事業		
予算額	2,572,000円	決算額	2,467,638円
<b>1 事業概要</b>			
地域の歴史と文化に関わる資料について、調査収集を行い、これを収蔵した。			
<b>2 事業実績</b>			
(1) 資料収集事業			
以下の資料について、新規に収集を行った。			
ア 有形民俗資料：薬師堂地区のお斎念仏道具及び万作衣装			
イ 歴史資料：戦争関係資料、近代の地図資料			
(2) 資料調査事業			
ア 歴史資料の調査：栗原家文書の整理解読（継続事業）			
イ 無形民俗文化財の調査：竹ノ内地区春祈祷、日出谷地区祇園祭 子ども囃子練習風景、岡村地区祈祷札作り 前領家地区正月準備			
(3) 資料収蔵事業 [補助員賃金 1,749,150円]			
ア 保存処理事業終了後の後谷遺跡第4次発掘調査出土品の再収蔵 縄文土器及び土製品16点			
イ 発掘調査資料の生涯学習文化財課からの移管収蔵			
(4) 資料管理業務 [委託料 555,228円]			
ア 収蔵環境調査を委託にて実施した。 実施期間：7月19日～8月17日 実施場所：一般収蔵庫、特別収蔵庫、展示室			
イ 燻蒸・殺虫業務を委託にて実施した。 実施期間：3月12日～15日 燻蒸・殺虫の対象とした資料：民具、古文書、歴史資料等			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
本事業は、歴史民俗資料館の最も基礎的な業務として実施した。			
(1) は、依頼に基づき新規収蔵を実施した。			
(2) は、継続的に実施している調査事業であり、今回は新たな行事の撮影を行った。			
(3) は、生涯学習文化財課と連携し、文化財の保存業務として実施したものである。			
(4) は、環境調査の結果等を踏まえ、一般収蔵庫・特別収蔵庫及び展示室の資料について燻蒸・殺虫業務を実施することができた。			
<b>4 今後の取組方針</b>			
(1) 資料の収蔵環境を整え、IPMの手法により資料の管理体制の確立を目指す。 ※IPM：有害生物が住みにくく、生まれにくい環境を総合的に講じる防除手法			
(2) 構築された資料管理システムを活用し、収蔵資料についての公開を順次進める。			

## 5 令和元年度の目標（値）

- (1) 総合的有害生物管理（IPM）による収蔵資料の管理を徹底する。
- (2) 資料管理システムを資料管理の核として活用していくために、未登録データの登録や既存データにデジタル画像を付与するなどの業務を計画的に進めていく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承 (206) 生涯学習・生涯スポーツの充実 (204)		
基本事業	多様な学習機会の提供 (2041)		
事業名	教育普及事業		
予算額	271,000 円	決算額	254,775 円

**1 事業概要**

桶川の歴史と文化について、展示及び講座をとおして市民に広く伝えた。

**2 事業実績**

(1) 展示事業—企画展・資料展示

テーマ	開催日	参観者数
「昭和の戦争と桶川」	8月5日～8月19日	265名
「川田谷古墳群を支えた古墳時代の暮らし」	11月17日～12月23日	1,024名
「神仏とともにある暮らし」	2月10日～3月17日	713名
「桶川の夏祭り」(※資料展示)	6月～7月	

[消耗品費 104,855 円 印刷製本費 79,920 円]

(2) 講座事業

ア 特別文化財講座

テーマ及び講師	開催日	参加者数
「熊野神社古墳の再評価」 坂本 和俊 氏	4月15日	52名
「群集墳と集落の展開について」 青木 弘 氏	12月16日	27名
「日々の祈りと神仏」 岡本 一雄 氏	3月10日	30名

イ 企画展示—解説講座

テーマ及び講師	開催日	参加者数
「桶川から知る近代の戦争」 歴史民俗資料館職員	8月19日	17名
「八幡耕地遺跡にみる古墳時代後期の暮らし」 橋本 富夫 氏	11月23日	21名
「神仏とともにある暮らし」 歴史民俗資料館職員	2月17日	18名

ウ 企画展示—映像解説講座

テーマ及び講師	開催日	参加者数
「坂田地区における採燈護摩と祈り」 齋藤 仁寿 氏	3月3日	36名

エ 資料解説講座

テーマ及び講師	開催日	参加者数
「後谷遺跡—発掘調査者の視点から—」 橋本 富夫 氏	10月27日	39名

[報償費 70,000 円]

(3) 体験学習事業

ア 紅花染め体験

事業名	開催日	参観者数
第24回べに花まつり関連事業	6月16日・17日	103名
鴨川保育所での体験事業	7月13日	19名

#### (4) 連携交流事業

##### ア 学博連携事業

事業名	参加校	参加者数
小学校3年生社会科に関わる見学	市内6校、市外3校	648名
小学校3年生総合的学習の時間に関わる支援	市内2校	162名
中学校総合的学習の時間に関わる支援	市内2校	275名

##### イ 公民館との連携事業

事業名	開催日	参加者数
子ども学芸員になってみよう	7月31日	16名

##### ウ その他の連携交流事業

事業名	実施回数	参加者数
郷土史・社会教育団体に対する見学、小講座	4回	119名
その他市民団体との連携事業	2回	43名

#### (5) 展示参観者数

展示参観者数の推移は、下表のとおりである。

摘要	平成28年度	平成29年度	平成30年度
入館者数 (人)	7,043	6,999	7,252
開館日数 (日)	287	286	287

### 3 上記2に対する評価

常設展示の参観者をやや増加することができた。しかし、開館時から展示施設の更新が行われていないことなどにより参観者数が伸び悩んでいる。

よって、一般的な参観者を待つという対応から、テーマを掲げた講座や展示の実施、さらには、参観者の希望に添う連携講座を展開した。

(1) は、近隣市との連携を図ることで、参観者の増加につなげることができた。

(2) は、展示との関連性をもった講座を企画することによって、参加者への理解を深めることはできたが、参加者の増加にはつなげることができなかった。

(3) 及び(4) については、市民相互の交流を促進する取り組みをはじめ、郷土学習に関する授業の支援を中学校において実施することができた。

### 4 今後の取組方針

(1) 企画展示や講座の開催にあたっては、地域の課題を積極的に取り上げる。

(2) 市民団体や青少年団体、民間との連携による事業の展開を進める。

(3) 観光振興の側面から、市内外への情報発信を積極的に進める。

(4) 常設展示のリニューアルに向けて構想の策定を進める。

(5) 後谷遺跡の重要性がPRできる事業を進める。

(6) 「博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業」の推進を図る。

### 5 令和元年度の目標(値)

(1) 展示業務—企画展示：年間2～3回 資料展示：3回以上

(2) 講座事業—特別文化財講座：1回 企画展講座：3回 資料解説講座3回以上

(3) 小・中学校とも連携を図りながら、郷土学習を深めるための支援を行う。

(4) 展示参観者数：7,500人の参観者を目指す。

桶川市の教育行政が未来を見据えて進められていることが確認できました。

#### I 豊かな学力の育成と質の高い教育環境の充実

ICT 教育の充実は重要課題と思われます。ICT 支援員及び ICT 機器の活用についてはどの程度の活用がなされたのか、その数値があるとよかったのではないのでしょうか。教育環境の整備についてはかなりの経費が予想されますが、学校が安心安全な場所であるためには老朽化対策が計画通り進められることをお願いします。また、知・徳・体の教育の充実については指導補助員の配置などがきめ細かく行われていることが評価できます。

#### II 豊かな心の育成と人権意識の高揚

人権教育や教育相談事業については様々な取り組みが行われており、評価できます。しかし、いじめの認知件数が小学校で前年度より 3 倍ほどに増加していることは全国的な傾向のようですが危惧すべきことと思います。教職員の人権教育研修などを充実していただき、いじめや差別に対しての指導力の向上を図っていただきたいと思います。

#### III 健やかな躰の育成

学校体育の充実、学校給食事業については大変評価できる内容だと思います。

#### IV 家庭・地域の教育力の向上

家庭教育の支援や青少年健全育成などに対する様々な取り組みや支援、そして、地域・家庭・学校の連携についても講演会やセミナーなどを実施しており大いに評価できます。教育委員会と市内小中高 P T A が一つになって行う「家庭教育講演会」や、「放課後子供教室」などは県内でも注目されるような取り組みだと思います。

#### V 生涯にわたる学びとスポーツの支援

市民が生涯にわたって学んだりスポーツを続けたりするための支援も充実しています。「子ども大学」は 20 名の定員に対して 15 名の参加は残念な気がします。取組初年度のためと思われます。一層の周知を期待します。また、市民大学は文字通り大学の教授の授業を受ける機会を提供しています。そして、市職員の出前講座が 31 講座用意されていることも評価できます。

#### VI 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進

文化財や民俗芸能の保存に対する交付金の交付や調査・保存の取組も実績を上げており評価できます。遺跡等の文化財が数多く存在する桶川市でありますので多くの難題もあると思いますが貴重な財産の調査保存に期待いたします。

吉村 史朗

・各学校の教職員が、児童生徒の実態を踏まえて、課題解決のために、各種の研究に取り組み、日々の教育活動の充実を図っていただいていることに敬意を表します。一方で、教師の残業時間の多さも指摘され、「働き方改革」も進められている中で、教師の労働時間や休職の実態、学校行事や各種研修の実態と精選の進め方などについての評価も本報告書の対象としていただけたらと思います。

・インクルーシブ教育の視点からも、通常の学級においても特別支援学級においても、多様な補助員を設置して「個に応じた対応」をしていただいています。また、市内 2 つの小学校の通級指導教室には 25 名の児童が通っています。中学校の通級指導教室の設置を県に要望していることは重要なことです。ソーシャルスキルトレーニングを身につけ、コミュニケーション能力を高めていく観点からも、市内全小中学校での通級指導教室の設置に向けて 10 年計画などで進めていただきたいと思います。

・市内全小中学校に学校応援団が設置され、活動が定着してきたことで、子供からの感謝の気持ちも強くなり、感謝の会などの取り組みもできてきました。また、学校評議員会と学校関係者評価委員会は学校運営の現状と課題について、共通理解を図り、工夫・改善を促進する役目を果たしてきており、これらの取り組みは市内全小中学校で始まるコミュニティ・スクールの学校運営協議会に繋がることでしょう。

・家庭が子供の教育に対する責任を自覚し、本来果たすべき役割を見つめ直す機会をつくることは重要です。市内に小中高等学校がある強みを生かして合同で開催している PTA 家庭教育講演会は最近 3 年間、500 名を超える参加者があり、保護者の意識の向上と教養を深めることができたと思います。また、実行委員会形式で取り組んでいる成人式は 11 年連続で、文部科学省後援の「成人式大賞」を受賞していて、継続して高い評価を得ています。いずれの取り組みも、主体的に運営に関わる方々の意欲と合意形成に向けた地道な努力の賜物であると思います。

・指定管理制度が図書館においても始まるなど、社会教育を取り巻く環境も変化している中で、以下のことは高く評価でき、今後の方向性を示した取り組みだと思います。

①社会教育委員、生涯学習推進会議委員との合同研修において、大学より講師を招き、集中的な講義を行い、生涯学習推進の方向性についての情報を得ることができました。

②「夏休み子どもワールド」に加え、クリスマス期間にも公民館全館同一テーマで集中的に講座を開催し、目標 55 を超える 71 講座で、受講者 4180 人、講座終了後に新たな 4 団体を結成しました。

③日体大や西武ライオンズとの相互連携協定に基づき、「ウォーキング教室」などのイベントでの連携事業によって、スポーツ・レクレーションの団体会員数の増加や生涯スポーツの普及・促進が期待されます。

・国指定重要文化財である後谷遺跡の保存修理を進めた結果、「みみずく土偶」などが歴史民俗資料館で展示され、東京国際博物館の特別展「縄文」、パリ開催の日仏友好 160 周年記念事業「ジャポニズム 2018」に出品され、国内外の人々が当市の文化財に接する機会を創出したことは価値のあることです。令和 3 年度に予定されている生涯学習センターの大規模改修に伴う展示のリニューアルに向けても、後谷遺跡の重要性を PR することが柱になっていくことでしょう。これまでの近隣市との連携や市民相互の交流を促進する取り組みに加えて、「博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業」などを通して、参観者を待つという姿勢から一歩進めた事業をさらに進めていただきたいと思います。



